



愛知医科大学

〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

TEL 0561-62-3311

FAX 0561-62-4866

<https://www.aichi-med-u.ac.jp/>

愛知医科大学

Aichi Medical University

50th anniversary

愛知医科大学創立50周年記念誌

[写真集]

愛知医科大学

Aichi Medical University
50th anniversary



愛知医科大学創立50周年記念誌
[写真集]



本学の校章である橘をモチーフに「50」を優しく包み込み支える葉と、新たに花開くような橘の花を配し、これからの50年もグローバルな視点を持って地域医療に貢献していく意思を表明したロゴマークです。「50」の文字には本学のシンボルカラーであるネイチャーブルーを使い、個性を表現しています。

地域医療への貢献という志のもと、
教職員と学生たちが、地域とともに築き上げてきた50年。

2022年、愛知医科大学は創立50周年という節目の年を迎えました。
社会を取り巻く環境から、大学を取り巻く環境まで、
さまざまなものが非常に大きく変わってきました。
時代の変化に合わせた柔軟な変革・仕組みづくりに積極的に挑戦し、
私たちだからできることで、地域医療の流れを切り拓いていきます。

**地域とのつながりを深め、
進化し続けることで、未来を広げる。**

地域の未来を支え続けていくために、
愛知医科大学の挑戦は、これからも続きます。

発刊にあたって

愛知医科大学は、2022年に創立50周年の節目の年を迎えました。この50年で大学や病院を取り巻く環境は大きく変わりました。本学が無事に50周年を迎えることができ、教育・研究・診療に対し、高い評価をいただくまでに成長できたことは、先輩・同窓の皆様のご尽力、関係者の皆様、地域の方々のご支援・ご協力の賜物と存じます。まずは大学を代表し厚く御礼申し上げます。

創立50周年記念事業の一環である記念誌事業につきましては、「紹介パンフレット」、「写真集」、「50年誌」の制作が計画されております。このたび、紹介パンフレットに続き、写真集が発刊され、愛知医科大学半世紀の歩みがより一層ご理解いただければ幸甚であります。

先人たちがその叡智と努力でつくり上げてきた愛知医科大学の50年に感謝の意を表し、本学の今後の発展に向けて、「新時代の要請に応える医療人を養成し、さらに地域の医療に奉仕する」という建学の精神に根差し、新しい医療の在り方を追究し、卓越した人材の育成を目指していきます。

社会情勢が目まぐるしく変わるなかで、これまで築き上げてきた愛知医科大学をさらに発展させ、地域や社会のニーズに応じていくには、スピード感のある変革が必要であります。21世紀における新しい医学医療の在り方には、変えないといけない部分と変えてはいけない心の部分があります。

社会から評価され選ばれる医療人や研究・教育者の育成、安心・安全の信頼できる先進医療の提供、地域とともに歩む医療の推進、将来に向けたキャリアパスの描ける場の提供など、50周年のスローガンでもあります。先進の医療を人と社会と未来へつないでいけるように、時代の変化を先取りする柔軟な変革・仕組みづくりに積極的に挑戦してまいります。

次の50年に向けて、愛知医科大学が進化し続けていくため、今後とも皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年3月

理事長・学長

祖父江元



| 建学の精神 |

本学は、新時代の医学知識、技術を身につけた教養豊かな臨床医、特に時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成し、あわせて医療をよりよく発展向上させるための医学指導者を養成することを目的とする。

そのため、医学を中心とした広汎な基礎的知識を授け、深い専門的技術を教授研究し、心身ともに健康なる医師を養育し、その知的、道徳的能力及び社会的有用性の向上を期している。

なお、私学の特性に鑑み、その自主性を重んじ、公共性を高めることによって、私立医科大学の健全なる発展を図り、社会福祉、殊に地域医療に貢献するとともに、東南アジアその他発展途上国の医療の進歩、向上に協力せんとする。

本学の修業年限は6年で、その間の教育に一貫性を期するとともに、研究の交流を図るために、その組織を基礎科学、基礎医学、臨床医学の各部門にわかち、それぞれの緊密なる連携を図ることにした。この点本学が新しい構想のもとに企画したところであり、本学の特色とするところである。かくして新しい「カリキュラム」をもって人間形成及び創造性の啓発を図り、人命の尊厳を守り、ヒューマニズムに徹し、各自の自主的、自発的勉学を尊重し、人間としての自覚にたった医学教育を目指しているのである。

| 学是 |

ぐがんこうきゅう

具眼考究

「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立った包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。さらに卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。

「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

| 大学歌 |

中村 千栄子 作詞
石井 歆 作曲

Andante (♩ = 88ca)

1. はれや かに さ なげののぞみ
2. さわや かに た ちばな かつり

まこと み つ しろきわがしろ さあふ け よ ー か ぜい
ひかり み つ きよきわがしろ さあこ げ よ ー か ぜい

さあふ け よ ー か ぜい せいしんの おかの めば
さあこ げ よ ー か ぜい せいめいの おかの なが

え を あいをこ め はぐくむものよ あた たか き
れ を ときをこ え きわめるものよ じん たる い の

こころを だいて めざそう よ めざそう よ あたらし き
えいちを あつめ てらそう よ てらそう よ ぶる さと を

いがくの み ね と を ああ われ ら あい
せかいの ひ と を

ち いか だいが く

愛知医科大学 大学歌

一、晴れやかに 猿投山を望み
誠 満つ 白き我が城
さあ 吹けよ 風
清新の丘の芽生えを
愛を籠め 育くむ者よ
温かき精神をだいて
目ざそうよ
新しき医学の峰を

二、爽やかに 橘かつり
光 満つ 清き我が城
さあ 漕げよ 權
生命の河の流れを
時を超え 究める者よ
人類の英知をあつめ
照らそうよ
故郷を 世界の人を
ああ われら
愛知医科大学

| 校章 |



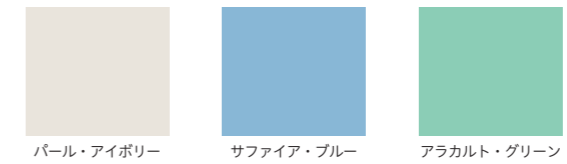
常緑樹である橘は、古くから京都御所で「右近の橘」として珍重され、文化勲章のデザインにもなっています。また、中国の故事に、橘の葉と井戸水により多くの疫病患者を治療したとあり、後に橘井（きっせい）という語が医師を意味する言葉として使われるようになりました。

本学では、橘の示す力強い意気をもって世界人類の幸福に貢献するという思いを込めて校章に使われています。

| 校旗 |



| スクールカラー |



パール・アイボリー（どこまでも深い愛）

医学に携わる者の出発点でもある。我々には、終着点はない。
深い海のフトコロに育まれた真珠のように、人類の幸福に貢献する精神である。

サファイア・ブルー（鋭い理性と冷静さ）

サファイアに宿る静寂をたたえたその者が、医学に携わる者の一つの姿勢を表している。

アラカルト・グリーン（豊かなみのり）

大地を覆うみどりの沃野、それは我々の願いであり、
また、我々の手によってつくり育てなければならないもの。

| シンボルマーク |



大学



大学病院



メディカルセンター



眼科クリニックMiRAI

全体構成は、愛知の「A」を基本形に、医科の「I」と「K」、さらには「人」という文字をイメージしており、医療メスと水平線に見立てたラインは、人と地域に貢献する医療の在り方を表現しています。

大学は知識と冷静さを感じさせる深いブルーからグリーンへのグラデーション、大学病院は自然豊かな長久手の環境をイメージしたグリーンのグラデーション、メディカルセンターと眼科クリニック MiRAI は地域医療を支える深い情熱と包容力をイメージしたエンジのグラデーションで表現されています。

愛知医科大学のシンボルマークは、2014年7月4日付で特許庁による商標登録証が交付され、商標登録されました。

登録第 5683200 号

指定商品または指定役務並びに商品及び役務の区分

第 16 類、第 25 類、第 41 類、第 42 類、第 44 類、第 45 類





Contents

Prologue

発刊にあたって

建学の精神・学是	06
大学歌	07
校章・校旗	08
スクールカラー・シンボルマーク	09
愛知医科大学の四季	10

今につながる変わらない心

創設期 | >> 1976 タクマシイ医師を養成する湖面に映える白亜の殿堂が誕生 16

AMU episode	AMU scene
episode 01 1971 設置認可までの歩み	scene 01 1971.6.3 教養棟竣工
episode 02 1970 校地の獲得	scene 02 1973.5.10 専門棟竣工
episode 03 1971-1973 教養棟・専門棟建設	scene 03 1972.4.11 第1回入学式挙行
episode 04 1972 第1回入学式	scene 04 1974.5.17 附属病院竣工
episode 05 1972 暫定病院の開院	scene 05 1974.11.23 愛知医科大学開学式挙行
episode 06 1974 附属病院の開院	
episode 07 1974 高等看護学院の開設	

拡充期 | 1977 >> 1991 大学及び附属病院に相次いでセンターや研究所が設置され、病棟も増設 28

AMU episode	AMU scene
episode 01 1979 救命救急センター設置	scene 01 1979.7.1 救命救急センター設置
episode 02 1983 メディカルクリニック開院	scene 02 1980.5.22 高松宮宣仁殿下、同妃喜久子殿下本学を御視察
episode 03 1982 体育館・運動療育センター開設	scene 03 1981.4.23 情報処理センター設置
episode 04 1988 総合実験研究棟竣工	scene 04 1981.12.16 C病棟竣工
episode 05 1981-1988 C病棟・D病棟竣工	scene 05 1982.5.7-9 創立10周年学生記念祭、前夜祭、記念式典・祝賀会挙行
episode 06 1980 大学院医学研究科設置	scene 06 1982.11.17 体育館竣工式
episode 07 1988 国際交流の第一歩	scene 07 1983.6.1 メディカルクリニック開院
	scene 08 1988.1.14 運動療育センター開設
	scene 09 1988.3.30 総合実験研究棟竣工

発展期 | 1992 >> 2001 21世紀ビジョン「躍進する愛知医科大学」希望に満ちた成長の時代へ 42

AMU episode	AMU scene
episode 01 1992 21世紀ビジョン	scene 01 1992 創立20周年記念事業
episode 02 1996 高度救命救急センターに指定	scene 02 1998.10.1 高度救命救急センター増築
episode 03 1999 大学本館竣工	scene 03 1999.9.2 大学本館竣工式
episode 04 1999 オープンキャンパス初開催	scene 04 1999.9.6 大学本館竣工
episode 05 2000 看護専門学校から看護学部への発展	scene 05 2000.4 看護学部開設
episode 06 2001 診療科・講座の再編成	scene 06 2000.5.17 看護学部開設記念式典挙行

飛躍期 | 2002 >> 2019 社会から評価され、選ばれる医科大学を目指し、どこにも無い、新しい病院づくり 56

AMU episode	AMU scene
episode 01 2002 ドクターヘリ導入	scene 01 2002.1 ドクターヘリ導入
episode 02 2002 寄附講座の設置	scene 02 国際交流
episode 03 2002 国際交流の促進	scene 03 駐車場整備
episode 04 2003 大学院看護学研究科の設置	scene 04 教育・研究環境の充実
episode 05 2004 駐車場整備	scene 05 2007-2018 キャンパス再整備
episode 06 2004 教育・研究環境の充実	scene 06 地域連携
episode 07 2006 災害時における医療救護活動	scene 07 2014.5.9 新病院（中央棟）開院
episode 08 2007 キャンパス再整備	
episode 09 2010 事務組織の整備	
episode 10 2012 地域連携	
episode 11 2013 シンボルマークの制定	
episode 12 2014 Student Doctor	
episode 13 2014 新病院（中央棟）開院	
episode 14 2015 基本方針と行動指針の制定	
episode 15 2016 大学評議会から大学運営審議会へ	
episode 16 2017 学是「具眼考究」の制定	
episode 17 2018 第1回オープンホスピタル	

これから | 2020 >> 時代の一步先を見据え、先進の医療を人と社会と未来へつないでいく 78

AMU episode	AMU scene
episode 01 2020 新型コロナウイルス感染症への対応（大学）	scene 01 新型コロナウイルス感染症への対応
episode 02 2020 新型コロナウイルス感染症への対応（病院）	scene 02 2020.12.5 看護学部創立20周年記念式典挙行
episode 03 2020 医学教育分野別評価	scene 03 他機関との連携協定
episode 04 2020 看護学部創立20周年	scene 04 2021.4.1 メディカルセンター開院
episode 05 2021 メディカルセンター開院	scene 05 2022.7.1 眼科クリニック MiRAI 開院
episode 06 2022 連携大学院の導入	
episode 07 2022 他機関との連携協定	
episode 08 2022 眼科クリニック MiRAI 開院	

未来につながる躍進する姿

挑戦を続ける愛知医科大学	92
創立 50 周年記念事業	108
創立 50 周年記念式典	110

Appendix

歴代理事長	116
歴代学長	117
歴代医学部長／歴代看護学部長／歴代病院長	118
役員・評議員	119
名誉教授	120
組織運営図	121
職員数	126
卒業生数・学位授与者数	127
大学病院指定／大学病院許可病床数	128
大学病院患者数・手術件数	129
大学病院高度救命救急センター患者数	130
メディカルセンター指定／メディカルセンター許可病床数・患者数・手術件数	131
メディカルクリニック指定／メディカルクリニック患者数／メディカルクリニック人間ドック等実施件数	132

編集後記

今につながる変わらない心

| 創設期 |

» 1976

タクマシイ医師を養成する
湖面に映える白亜の殿堂が誕生

愛知医科大学は、「患者からも、地域からも、発展途上国からも頼りにされる『タクマシイ』医師を養成する」という初代理事長 太田元次の熱い思いのもと、1972年に誕生した。

「湖面に映える白亜の殿堂」という外観のイメージを実現させられる地として選ばれた長久手村（当時）。立石池を眼前にした丘陵地に、教養棟（現・基礎科学棟）、専門棟（現・研究棟）、附属病院が続々と建設された。さらに1974年、高等看護学院が設置認可を受けた。

episode 01 | 1971

episode 01
設置認可までの歩み

1967年ごろから、名古屋掖済会病院長 太田元次氏、香流病院長 重富克美氏を中心として私立医科大学構想の気運が徐々に高まり、これを支援する医学関係者の要望に応えるべく、愛知医科大学設立準備委員会が設置された。

委員会始動時には第一次石油危機（オイルショック）、高度のインフレなど経済事情の悪化が甚だしく前途多難な状態であったが、関係者の熱意と努力により、幾多の困難を乗り越えて設置認可の条件を整えた。

そして、学校法人両国学園（理事長 太田元次）として文部省（当時）に

episode 02 | 1970



愛知医科大学設置認可の申請を行い、1971年12月25日に認可を受けた。同日付で法人名を学校法人愛心会と改めた（1977年12月5日に学校法人愛知医科大学と改め、現在に至っている）。

episode 02
校地の獲得

重富氏は長久手村（当時）立石池北部の権八池（字雁又）と、その後背の丘陵（字丸根）を、大学用地の候補地にと計画した。ここは長久手古戦場で知られる丘陵地で、「湖面に映える白亜の殿堂」という外観のイメージを実現させられる地であった。1970年から1972年にかけて順次買収、大学

episode 03 | 1971・1973



用地への転用に成功した。

episode 03
教養棟・専門棟建設

開学前から、進学（教養）課程のための校舎を教養棟、専門課程のための校舎を専門棟と称し、キャンパス計画を立案していた。開学時に必須の教養棟は先行して建設工事に着手、1971年6月3日に竣工した。約127mと東西に長い、2階建（一部3階建）の低層建築であった。1階には事務・管理部門、各種実験室、合同教室、2階には教員研究室、会議室、各種実験・実習室、大合同教室、図書分室、閲覧室・書庫、法人本部、3階には4つの教室が配された。

主な出来事

1969年 ●有志による「愛知医科大学設立準備委員会」設置

1971年

6月3日 ●教養棟竣工

12月25日 ●愛知医科大学（医学部医学科）設置認可

●法人名を学校法人両国学園から学校法人愛心会と改称

1972年

1月28日 ●暫定病院開設許可

2月1日 ●暫定病院使用許可

4月11日 ●医学部第1回入学式挙行

7月1日 ●暫定病院開院

1973年

5月10日 ●専門棟竣工

1974年

1月28日 ●附属病院開設許可

5月17日 ●附属病院竣工

5月30日 ●附属病院使用許可

6月1日 ●附属病院開院（外来診療開始）

9月9日 ●高等看護学院設置認可

9月20日 ●高等看護学院第1回入学式挙行

11月1日 ●第1回医大祭「帆をはり 舵をとれ」開催（～3日）

11月23日 ●愛知医科大学開学式挙行

1976年

9月20日 ●高等看護学院を看護専門学校と改称

» 1976

episode 04 | 1972



専門棟は、権八池を埋め立てた芝庭の北側に1973年5月10日に竣工した。教員の研究室、講義室、演習室、各種実験室・実習室、解剖室等に加え、図書・管理棟も含む複合棟であった。

episode 04

第1回入学式

本学の発足を記念する第1回入学式は、1972年4月11日、教養棟にて開催された。開会の辞に続いて、入学者142名全員の氏名が読み上げられた。学生代表の宣誓の後、橋本義雄学長は新入生を前に、次のように告示した。

『愛知医科大学の学風は』と問う

者があるとしたら、それは諸君らによって初めて創られるものでありまして、それが後輩に受け伝えられるものでありましょう。それだけ諸君に対する期待は大であり、世人の目は常に諸君に対して鋭く注がれているものと思わなければなりません。』

episode 05

暫定病院の開院

本学の開学にあたり、重富氏は自身が診療所長を務める香流病院（名古屋守山区）を暫定病院（附属病院が完成するまでの間一時的に附属病院に代替される病院）として寄附すると申し出た。重富氏は、精神科主体

episode 05 | 1972



であった香流病院を総合病院「守山十全病院」として改修した後、1970年9月末に本法人へ寄附した。しかし、文部省（当時）の指導により返還、改めて賃貸借という形で契約を結び、1972年2月1日に施設使用許可を受け、これが暫定病院となった。

開院当初、全体としては本意な診療体制で発足せざるを得なかったとの記録もあるが、2年後、暫定病院が廃止され愛知医科大学附属病院が開院するまでには、13診療科が実現するに至った。

episode 06 | 1974



episode 06

附属病院の開院

1974年5月17日、附属病院が竣工した。立石池から東に向かって臨めば、11階建のA病棟・B病棟を中央に、左に低層の専門棟を、右に外来棟を従えた文字通りの白亜の殿堂だった。

1974年5月30日には愛知県から使用許可を得て、翌日6月1日に開院、外来診療を皮切りに入院患者の収容を始めた。許可病床数819床、13診療科でスタートした本院は、入院患者数の1日平均は104.5人、外来患者数は254.5人だった。

episode 07

高等看護学院の開設

戦後、私立医療機関における看護婦不足は著しく、本学も例には漏れなかった。愛知医科大学開学前から構想があったと思われる本学看護学校は、「正」看護婦の養成を基本構想としていたため、准看護婦有資格者に3年間の養成コースで正看護婦国家試験の受験資格を与える全日制をとるとし、1974年4月の開設を目指していた。しかし、全日制では昼間、准看護婦有資格者として雇用できないため、看護婦数を補完するべく、2年課程（修業年限3年）昼間定時制に切り替えられた。

看護学校と一体的に構想された看

episode 07 | 1974

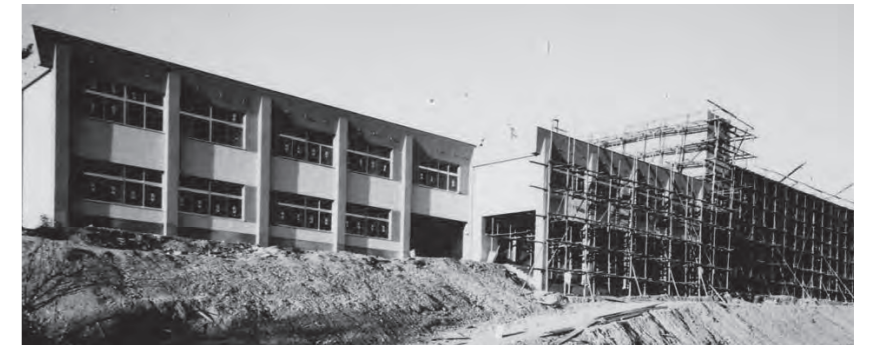


護宿舍の開設が1974年半ばの予定となったため、開校は1974年9月となった。学校名は「正」看護婦国家試験受験資格付与を意味する「高等」を冠した高等看護学院とした（1976年9月20日に看護専門学校と改称した）。

教養棟竣工



教養棟と後にテニスコートとなったグラウンド



教養棟は岩作雁又に校地を借用して、開学前の1970年8月に着工



1971年6月3日に竣工した教養棟



教養棟と一期生

専門棟竣工



専門棟西正面(図書・管理棟部分)



図書館の様子



1971年7月に着工した専門棟



1973年5月10日に竣工した専門棟

第1回入学式挙行



1972年4月11日に開催された医学部第1回入学式



学生代表の宣誓



太田理事長のあいさつ



橋本学長の告示



受付の様子



新しい友人と語る学生たち



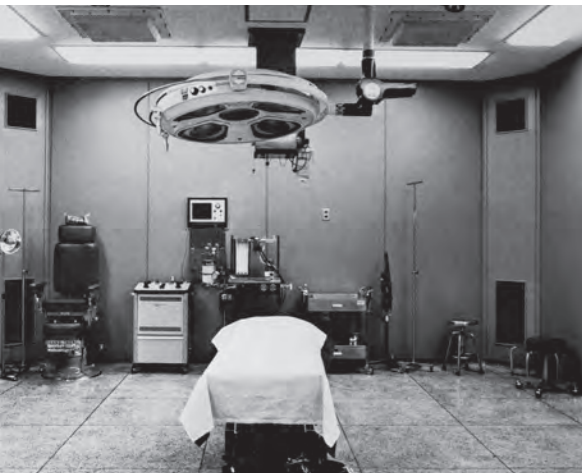
立石池から臨む附属病院



外来棟外観



エントランスホールへと続く赤レンガの階段



手術室



病室



受付の様子



外来待合室



1974年11月23日に開催された開学式



太田理事長のあいさつ



橋本学長のあいさつ



受付の様子



記念パーティの様子



1977 >> 1991

| 拡充期 |

1977 >> 1991

大学及び附属病院に相次いで センターや研究所が設置され、病棟も増設

新設医科大学としての期待を一身に受けて開学した愛知医科大学であったが、当初の大学運営にはさまざまな困難も伴った。しかし、1970年代後半から1980年代は、愛知県下で初の救命救急センター、名古屋市中心部のメディカルクリニック、創立15周年記念事業の運動療育センターなど、大学及び附属病院に相次いでセンターや研究所が設置され、病棟も増設された拡充期となった。

さらに1980年、大学院医学研究科が設置され、新進気鋭の大学院生を迎えて名実ともに医科大学としての体制が整った。1988年には、中国の白求恩医科大学（現・吉林大学医学部）と学術交流に関する覚書を交換し、国際交流への第一歩を踏み出した。

episode 01 | 1979



episode 01 救命救急センター設置

1979年7月1日、厚生省（当時）の救急医療対策事業実施要綱に基づき愛知県下第1号の救命救急センターが本学に設置された。大学附属病院の一環としての設置は全国の大学に先駆けたものであった。

開設にあたって、同センターは周辺医療機関では対応困難な患者さんを対象とする第三次医療に限定して行うこととなった。ICU10床、HCU20床、救急処置室、緊急検査室等が必要施設規模とされていたが、病床はICU6床のみで活動を開始した。

その後1983年までにはICU10床、HCU20床が整備され、さらに1988

年3月には愛知県指定の重傷熱傷治療ユニット2床もICUに包括された。

episode 02 メディカルクリニック開院

名古屋市から本学附属病院への外来患者数は、1983年当時、守山区・名東区からの各3万人程度に過ぎなかった。名古屋市街を本学附属病院の診療圏に加えるためには、名古屋市の中心に本学附属病院の分院が必要であった。

1983年、偶然にも名古屋大学附属病院旧分院の跡地に東桜スカイハイツが建設された。その地下1階、地上1・2階に「愛知医科大学メディカルクリニック」が設置され、同年6月1日に

episode 02 | 1983



11診療科が診療を開始した。

開院にあたっては、入院施設を持たず外来専門に限定することとなった。さらに、地域開業医と高度診療機能を備えた本院とのパイプ役として機能することが求められていた。

開院当年の1日平均患者数は約50名であったが、翌年から診療実績も年々増加し、1991年には1日平均患者数は約200名となった。

episode 03 体育館・運動療育センター開設

1982年に本学が創立10周年を迎えることから、創立10周年記念事業が計画された。そのなかの一つが、体育館（兼講堂）の建設であった。体育

主な出来事

- 1977年
 - 8月6日 ● 看護専門学校第1回卒業式挙
 - 12月5日 ● 法人名を学校法人愛知医科大学と改称
- 1978年
 - 3月18日 ● 医学部第1回卒業式挙
- 1979年
 - 7月1日 ● 附属病院救命救急センター設置
- 1980年
 - 3月26日 ● 大学院医学研究科設置認可
 - 5月22日 ● 高松宮宣仁殿下、同妃喜久子殿下本学御視察
 - 6月4日 ● 大学院医学研究科第1回入学式挙
 - 12月1日 ● 愛知医科大学学報 創刊

- 1981年
 - 4月23日 ● 情報処理センター設置
 - 12月16日 ● C病棟竣工
- 1982年
 - 5月9日 ● 愛知医科大学創立10周年記念式典挙
 - 11月17日 ● 体育館竣工
- 1983年
 - 4月1日 ● 加齢医学研究所設置
 - 4月20日 ● メディカルクリニック開設許可
 - 5月26日 ● メディカルクリニック開設式挙
 - 6月1日 ● メディカルクリニック開院
 - 12月21日 ● 附属動物実験施設設置
- 1984年
 - 3月17日 ● 大学院医学研究科第1回学位記授与式挙

- 1985年
 - 11月9日 ● 看護専門学校創立10周年記念式典挙
- 1987年
 - 10月1日 ● 運動療育センター設置
- 1988年
 - 1月14日 ● 運動療育センター開所式挙
 - 3月18日 ● D病棟竣工
 - 3月30日 ● 総合実験研究棟竣工
 - 4月1日 ● 核医学センター、研究機器センター、分子医学研究所設置
● 附属動物実験施設を動物実験センターと改称
 - 8月17日 ● 白求恩医科大学との学術交流に関する覚書交換
- 1990年
 - 8月25日 ● 第1回愛知医科大学公開講座開講

episode 03 | 1982



館は1982年11月17日に竣工した。
1987年には、創立15周年記念事業として未着工であった体育館の1階に第2期工事が施された。そして1988年1月、体育館の1階～2階に「Physical Fitness」「Sports Medicine」「Rehabilitation」を3つの柱とする運動療育センターが開設された。健康を大前提とした運動処方が実践できる場として、全国の医科大学に先駆けて開設されたものであった。

episode 04
総合実験研究棟竣工

創立15周年記念事業において加齢医学研究所、分子医学研究所、核医学センター、動物実験施設を内包さ

episode 04 | 1988



せる壮大な総合実験研究棟の建設が計画され、1988年3月30日に竣工した。
加齢医学研究所は、高齢化社会の要請に応えるべく老化機構の解明のため、創立10周年記念事業の柱として1983年4月にすでに専門棟で発足していたが、新設された総合実験研究棟の2階中央部へ移転した。
分子医学研究所は、世界に先駆けてマトリックステクノロジーの研究センターとして1988年4月、総合実験研究棟の2階及び3階に設置された。
核医学センターの前身は1976年に設置されたアイソトープセンターであり、附属病院の中央放射線部に併設されていた。しかし、専有面積が狭く運用上も種々の制限があったため、研究施設を独立させることが必要となり、

episode 05-1 | 1981



1988年4月に総合実験研究棟の3階に設置された。
動物実験施設については、1973年には専門棟にマウスとラットの飼育場所が設けられ、1979年にはイヌ・ネコを主体とした動物実験棟が建設されるなど、開学当初から充実が図られていた。そのようななか、さらに進展する動物実験研究に対応するべく、総合実験研究棟の1階に動物実験施設が開設され、これで動物実験関係の総面積は2,852㎡となった。

episode 05
C病棟・D病棟竣工

819床で開院した附属病院であったが、外来、入院ともに患者数は年々増

episode 05-2 | 1988



加の一途をたどり、この時期には病床が不足気味となっていた。医療収入を増加させ、さらに目前に控えた大学院医学研究科設置に必要な病院規模とするには、病棟の増設が必須事項であった。
このため、既存のA病棟・B病棟に加え、1981年12月16日にC病棟（当時・中央棟）、1988年3月18日にD病棟が増設された。これにより附属病院の病床数は総計1,271床となった。この結果、入院患者数は25万人台から32.5万人台へと近づき、外来患者数は1982年度27万人台であったが、1988年度には37万人台へと3割近く上昇した。

episode 06 | 1980



episode 06
大学院医学研究科設置

卒業生が学位を取得するために必須である大学院医学研究科の設置については、開学当初から大学と一体的に構想されていた。1979年度からの大学院発足を目指し、1978年11月30日付で「学校法人寄附行為変更認可申請書」を文部省（当時）に申請、また、教育スタッフのさらなる充足と教育機器を始めとする諸設備の整備を図るため、全学を挙げての努力がなされた。
大学院設置が認可されたのは1980年3月26日であったため、発足は希望より1年遅れの1980年度となった。

episode 07 | 1988



白求恩医科大学との学術交流に関する覚書

episode 07
国際交流の第一歩

中華人民共和国吉林省長春市の白求恩医科大学（現・吉林大学医学部）との大学間学術国際交流を行うことが決定されて以降、本学は研修医を受け入れ、教員を派遣した。その交流実績に基づき、学術交流に関する覚書を交換したいと白求恩医科大学から申し出があり、1988年8月に正式な覚書が交わされた。これが本学にとっての国際交流の第一歩となった。
覚書には、(1) 資料、出版物その他の学術情報の交流、(2) 教育及び研究等を行うための教職員及び研究者の交流、(3) その他両大学が協議して同意した事項の交流を行うことが記されていた。

救命救急センター設置



救命救急センター正面玄関



病室



ICU-CCU 病室



薬浴室



緊急検査室

高松宮宣仁殿下、同妃喜久子殿下本学を御視察



1980年5月22日午前9時45分、病院正面玄関にお着きになった高松宮同妃両殿下



病院正面玄関前にて両殿下による記念の松のお手植え



大学中庭にて高松宮同妃両殿下を囲んで記念撮影（「愛知医科大学学報」第1号（1980年12月号）の表紙写真として掲載）

情報処理センター設置



研究・教育・事務管理等の各部門の情報処理の一層の合理化、効率化を図るため、1981年4月23日に設置された情報処理センター

C病棟竣工



A病棟・B病棟に並行した位置に建設されたC病棟

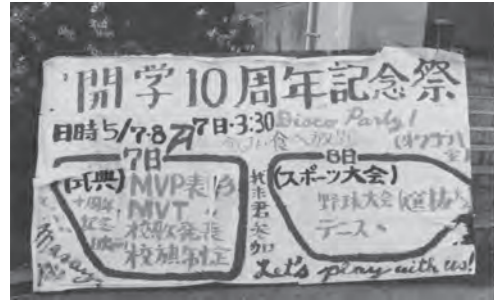


C病棟内部に設けられた講義室



A病棟・B病棟エントランスホールへの階段と同じ赤レンガを使用したC病棟玄関

創立10周年学生記念祭、前夜祭、記念式典・祝賀会举行



記念式典に先立ち開催された学生記念祭



創立10周年記念として、女流詩人中村千栄子氏作詞、愛知県立芸術大学音楽部長(教授)石井敏氏作曲により1982年2月に作成、記念式典で披露された大学歌



記念前夜祭における万歳三唱



附属病院第1講義室で開催された記念式典



高松宮殿下と談笑する多湖理事長

体育館竣工式



竣工したばかりの体育館



新体操デモンストレーション

講堂兼アリーナ



記念祝賀会の様子



記念祝賀会であいさつする岡田学長

メディカルクリニック開院



メディカルクリニック外観



診察室



UGI検査



待合室



1983年5月26日に開催されたメディカルクリニック開院式

運動療育センター開設



トレーニングルーム



温水プール



1988年1月14日に開催された運動療育センター開所式



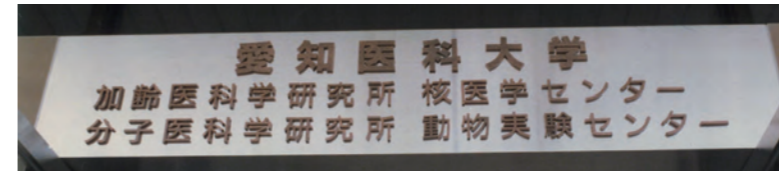
負荷心電図



サイベックス筋力測定



総合実験研究棟外観



総合実験研究棟竣工式にて



γ実験室 (核医学センター)



実験室 (加齢医科学研究所)



コールド実験室 (分子医科学研究所)



検疫検査室 (動物実験センター)

1992 >> 2001

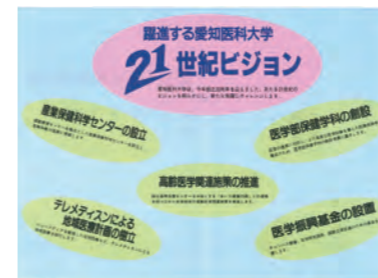
| 発展期 |

1992 >> 2001

21世紀ビジョン 「躍進する愛知医科大学」 希望に満ちた成長の時代へ

創立20周年を迎えた愛知医科大学は、さらなる発展を遂げた。1999年に、たちばなホール、図書館、レストランなどを併設した大学本館が完成した。2000年には、看護専門学校が看護学部へ発展したことに伴って看護学部棟も完成し、新時代のキャンパス体制が整った。この時期には、ナンバー診療科制であった内科・外科が、臓器別診療科に再編成されるとともに、内科学・外科学の大講座制が導入され、開院以来の劇的な変化を遂げた。21世紀ビジョン「躍進する愛知医科大学」を象徴するような、希望に満ちた成長の時代となった。

episode 01 | 1992



episode 01 21世紀ビジョン

1992年度に本学が創立20周年を迎えることから、医学への将来展望を踏まえた記念事業として21世紀ビジョン事業を実施することとなり、1991年6月10日、その方針と概要が決められた。具体的には、産業保健科学センターの設立、医学部保健学科の創設、テレメディスンによる地域医療の推進、高齢医学諸施策の推進、医学振興基金の設置が企画・検討された。なかでも産業保健科学センターの設置構想は即座に実現し、1993年6月16日に開設された。

募金によって集積された医学振興基金は、医学研究の奨励や国際交流促

episode 02 | 1996



進のほか、後の新教育棟建設事業の財源とされた。

episode 02 高度救命救急センターに指定

愛知県下第1号の本学救命救急センターは、1996年3月28日付で厚生省(当時)から「高度救命救急センター」として指定された。高度救命救急センターはより高度な救急医療の拠点として当時全国に8か所指定されており、中部地区では本学の指定が初めてであった。

この指定を受けて、1998年10月1日にセンターの増築工事が完了した。既設棟の東側には2階建、延床面積1,630㎡の建物が増築され、救急車専

episode 03 | 1999



用玄関、救急処置室の増設、放射線関連施設の統合など、地域の救急医療に貢献する救命センターとしての充実が図られた。

episode 03 大学本館竣工

本学は大学創設期の財政上、必要度の切迫した順に施設を建設せざるを得ず、学生を収容する講義室やセミナー室は至る所に点在してしまっていた。そこで、講義室、セミナー室、図書館、多目的ホール等の基本的な教育施設全般について、その機能・スペース問題を一挙に超える新施設の建設が計画された。

この建物は、工事中は「教育棟」と

主な出来事

- 1992年
 - 10月30日 ● 愛知医科大学創立20周年記念式典・祝賀会举行
- 1993年
 - 6月16日 ● 産業保健科学センター設置
- 1994年
 - 2月1日 ● 附属病院が特定機能病院に認定
- 1996年
 - 3月28日 ● 附属病院救命救急センターが高度救命救急センターに指定
- 1999年
 - 9月6日 ● 大学本館竣工
 - 9月18日 ● オープンキャンパス初開催
 - 12月22日 ● 看護学部看護学科設置認可

- 2000年
 - 3月9日 ● 看護学部棟竣工
 - 4月5日 ● 看護学部第1回入学式举行 (医学部合同)
 - 5月17日 ● 看護学部開設記念式典举行
- 2001年
 - 4月1日 ● 内科外科の臓器別診療科編成での外来診療開始
 - 6月16日 ● 薬毒物分析センター設置
 - 10月6日 ● 看護学部第1回キャンドルセレモニー举行

episode 04 | 1999



仮称されていたが、後に正式な施設名を「1号館（大学本館）」とすることになった。1998年3月17日に着工され、それからおよそ1年半後に完成し、竣工式・祝賀会が1999年9月2日に執り行われた。

episode 04
オープンキャンパス初開催

本学は志願者獲得のため、高等学校への訪問・入試説明会・予備校訪問を実施、また、進学相談会にも参加し、積極的に本学のPR活動を行っていた。

さらに、1999年9月18日には竣工したばかりの大学本館において初めてオープンキャンパスが実施された。祖

episode 05 | 2000



父江逸郎学長のあいさつに始まり、本学の概要説明、入試説明、模擬授業、卒業生からのメッセージ、施設見学に加えて、希望者に対する個別相談も行われた。翌年度4月に看護学部を開設する予定もあったことから、医学部だけでなく看護学部を希望する受験生や保護者など、約200名が来学した。

episode 05
看護専門学校から看護学部への発展

より高度な知識・技術を有する医療技術者の養成のため、本法人にも医療技術短期大学の設置構想が浮上した。この構想は次第に発展し、「21世紀ビジョン」における医学部保健学科

構想を経て、看護学部構想となった。1998年9月には看護学部設置認可申請が理事会で承認され、看護専門学校は在校生の卒業と同時に廃止することが併せて決定された。

2000年4月の看護学部開設を目指し、看護系教員の人材確保、保健・医療・福祉領域での臨地実習施設の確保、看護学部棟の建設が開始された。限られた時間の中で関係者の献身的な協力を得て、開設1か月前に看護学部棟が竣工した。

episode 06 | 2001

内科	
【従来】	【臓器別診療科編成】
第1内科	総合診療内科
第2内科	消化器内科
第3内科	循環器内科
第4内科	呼吸器・アレルギー内科
	内分泌・代謝・糖尿病内科
	神経内科
	腎臓・膠原病内科
	血液内科

episode 06
診療科・講座の再編成

2001年4月1日、本学附属病院の内科、外科診療体制は、開院以来の劇的な変化を遂げることになった。それは、臓器別診療科編成の導入である。

それまでの診療体制は、いわゆる「ナンバー診療科制」であり、同じ医療機器が各診療科に配置されていることや、どの内科にかかれば最善の医療が受けられるのか患者さんにとっても地域の医療機関にとっても分かりづらいことがデメリットであった。

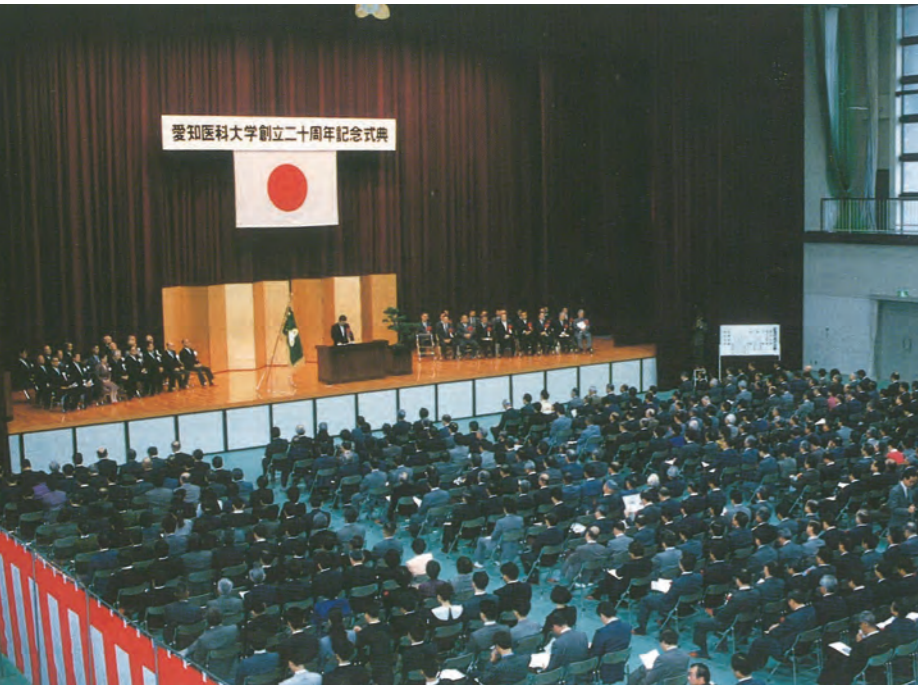
こうした問題を解決し、患者さんに分かりやすい体制を築くとともに、効率化・合理化を図るため、内科・外

外科	
【従来】	【臓器別診療科編成】
第1外科	総合診療外科
第2外科	消化器外科
	心臓・血管外科
	呼吸器外科
	乳腺・内分泌外科

科のナンバー診療科制は廃止され臓器別診療科編成が導入された。

診療科の再編とともに、内科学・外科学の大講座制への再編も進められた。内科学第1から第4は内科学講座に、外科学第1と第2は外科学講座に統一され、全31あった講座は27となった。

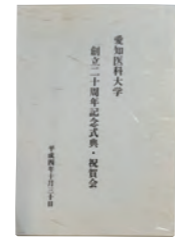
創立20周年記念事業



1992年10月30日に本学体育館で開催された創立20周年記念式典



式辞を述べる新美理事長



記念式典で配布された式次第



祝賀会における21世紀ビジョンの1つ「テレメディスンによる地域医療情報ネットワーク構想」のパネル展示及びデモンストレーション



記念式典に引き続いて開催された祝賀会



西日本医科学学生総合体育大会で優勝したバレーボール部員の表彰



記念式典・祝賀会と同時に、医大祭の前夜祭も兼ねて開催された学生記念祭



読売新聞に2000年10月27日に掲載された広告



創立20周年を記念して作成されたシール(スクールカラーの1つであるサファイア・ブルーを基調とし、未来に向かって飛躍する姿をイメージ)



創立20周年記念事業として実施された公開講座(あいさつする祖父江学長)



創立20周年記念講演会で講演する祖父江学長

高度救命救急センター増築



増築された高度救命救急センター外観



高度救命救急センター玄関



循環器疾患に対する設備として設置された心血管撮影装置

大学本館竣工式



1999年9月2日に完成したばかりのたばなホールで開催された大学本館竣工式



エントランスホールにおける神事の様子



竣工式で配布されたパンフレット



加藤長久手町長による乾杯



祝賀会でのモンゴル国立民族歌舞団による演奏



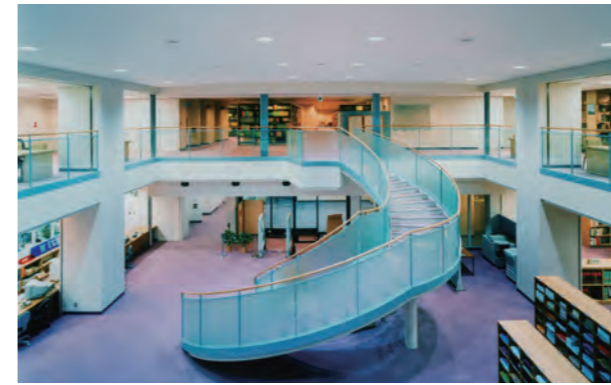
大学本館外観



建設風景



エントランスホール外観と池



大学本館に内包された図書館



マルチメディア教室



第1会議室



たちばなホール



エントランスホール



講義室 (130人収容)



外観 (夜景)



看護学部棟外観



講義風景



グループワーク



実習風景



第1期生からの卒業記念品『からくり時計』



2000年3月13日に開催された看護学部棟竣工式



外観（夜景）



キャンドルセレモニー

看護学部開設記念式典挙行



大学本館たちばなホールで開催された看護学部開設記念式典



記念式典で配布されたパンフレット



式辞を述べる新美理事長



あいさつする高橋看護学部長



記念式典に続いて開催された記念祝賀会



あいさつする植村教務学生部長



京都大学名誉教授 星野一正先生による記念講演会

2002 >> 2019

| 飛躍期 |

2002 >> 2019

社会から評価され、
 選ばれる医科大学を目指し、
 どこにも無い、新しい病院づくり

「社会から評価され、選ばれる医科大学」－さらなる飛躍を目指す時代に掲げられたこの基本方針が原動力になり、開学以来最大のプロジェクトであるキャンパス再整備計画が2006年に始動した。11年間にわたって多くの施設が増設された。なかでも2014年に完成・開院した新病院（中央棟）は「どこにも無い病院をつくり上げる」という思いと叡智が凝縮された、先進医療を担う新しい病院として地域に迎え入れられた。本計画は、ドクターヘリ格納庫建設をもって完了した。この飛躍期に定められた学是「具眼考究」は、時代に即した良き医療人の心構えとして、教職員及び学生の心に今も刻まれている。

episode 01 | 2002



episode 01
 ドクターヘリ導入

厚生労働省は、全国でドクターヘリ事業の条件を満たす病院を選定し、2001年度から順次配備を進めてきた。愛知県では、2002年1月から愛知医科大学病院を基地病院として、全国で4番目のドクターヘリ事業が開始された。本院の医師・看護師が搭乗し、年間約400件の救命医療活動を行っている。また、ヘリポートに面して建設された格納庫が2018年4月から運用され、救命医療活動を支えるより一層の運航環境が整備された。

episode 03 | 2002



episode 03
 国際交流の促進

1988年に中国の白求恩医科大学（現・吉林大学医学部）との学术交流協定締結が本学の国際交流の第一歩となったが、2000年に開設した看護学部においても2002年から、米国のサンディエゴ大学ハーン看護健康科学学部との国際交流を開始した。

国際交流の充実を図るため、医学部・看護学部ともに数々の大学との国際交流事業が進むなか、国際交流の拠点化に向けて2015年4月1日に「国際交流センター」が設置され、国際的かつグローバルな視野を有する医療人の育成が推進されている。

主な出来事

- 2002年
 - 1月1日 ● ドクターヘリ導入
● 学際的痛みセンター設置
 - 4月26日 ● 看護専門学校廃止認可
- 2003年
 - 11月27日 ● 大学院看護学研究科設置認可
- 2004年
 - 3月6日 ● 看護学部第1回卒業式挙行（医学部合同）
 - 4月1日 ● 医学教育センター設置
 - 4月7日 ● 大学院看護学研究科第1回入学式挙行
- 2005年
 - 4月1日 ● 病院名を愛知医科大学附属病院から愛知医科大学病院と改称

- 2006年
 - 3月4日 ● 大学院看護学研究科第1回学位記授与式挙行（医学研究科合同）
- 2008年
 - 4月1日 ● 総合医学研究機構、臨床試験センター、先端医学・医療研究拠点、看護実践研究センター設置
- 2009年
 - 3月15日 ● 保育所「アイキッズハウス」竣工
 - 7月1日 ● 新立体外来駐車場開設
 - 8月31日 ● 医心館竣工
- 2010年
 - 4月1日 ● 総合医学研究機構改組
- 2012年
 - 1月4日 ● 長久手市市制施行に伴う所在地地名番変更
 - 4月1日 ● 先端医学研究センター設置

- 2013年
 - 6月2日 ● ドクターヘリ5,000回出動達成
 - 11月1日 ● シンボルマーク制定
 - 11月30日 ● 新病院（中央棟）竣工
- 2014年
 - 4月2日 ● 第1回 Student Doctor 認証式挙行
 - 4月23日 ● 新病院（中央棟）使用許可
 - 5月9日 ● 新病院（中央棟）開院
 - 11月1日 ● 災害医療研究センター設置
- 2015年
 - 4月1日 ● 国際交流センター、シミュレーションセンター設置
- 2016年
 - 4月1日 ● 研究創出支援センター設置

- 2017年
 - 3月30日 ● バスロータリー完成記念発車式挙行
 - 4月1日 ● 総合学術情報センター設置
 - 4月21日 ● 立石プラザ（アメニティ棟）竣工
 - 5月29日 ● 学是「具眼考究」制定
 - 6月1日 ● 立石プラザ（アメニティ棟）オープン
- 2018年
 - 4月30日 ● ドクターヘリ格納庫運用～キャンパス再整備完了～式典挙行
 - 11月3日 ● 第1回オープンホスピタル開催

2002 >> 2019

episode 04 | 2003



episode 04
大学院看護学研究科の設置

卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践職業人の養成を目指し、2003年11月27日付で設置認可された「大学院看護学研究科」では、2015年10月に厚生労働省から特定行為に係る看護師の研修制度に基づく研修機関の指定を受け、文部科学省からは「職業実践力育成プログラム」(BP)として、高度実践看護師(診療看護師[NP])コースが2018年度に、高度実践看護師(専門看護師[CNS])コースは2019年度に認定を受けている。

episode 05 | 2004



episode 05
駐車場整備

教職員・学生の利用はもとより、外来患者数の増加に伴う周辺道路渋滞対策としてもキャンパス内の駐車場整備が行われてきた。第2駐車場の東面に56台収容の駐車場整備(2004年3月)、旧看護専門学校跡地への132台収容の外来駐車場増設(2004年7月)、キャンパス再整備の一環として、雁又グラウンドに765台収容の駐車場整備(2008年7月)、地上5階・地下1階の6階建801台収容の新立体外来駐車場を整備した(2009年7月)。

episode 06 | 2004



episode 06
教育・研究環境の充実

医学教育の改善・改革を図る医学教育活動の中心的役割を果たす「医学教育センター(2004年4月1日設置)」、看護職へのキャリア支援と地域住民の健康支援活動を担う「看護実践研究センター(2008年4月1日設置)」、診療・看護に必要な知識・技術・態度の習得を支援する「シミュレーションセンター(2015年4月1日設置)」、知の拠点として快適な学修環境を整備する「総合学術情報センター(2017年4月1日設置)」など、学びを深める充実した教育環境が次々と整備されてきた。

また、研究活性化を幅広く支援する

episode 07 | 2006



「総合医学研究機構(2010年4月1日改組)」、研究活動の活性化と研究成果の創出を担いバイオバンクを有する「研究創出支援センター(2016年4月1日設置)」など、卓越した研究活動を促進するための研究環境の整備にも取り組んできた。

episode 07
災害時における医療救護活動

愛知医科大学病院は、2006年9月に愛知県から災害拠点病院の中核を担う「基幹災害拠点病院」に指定。災害時における傷病者の受け入れだけでなく、被災地で医療支援を行うDMATを保有し、県内の災害拠点病院への災害医療研修など幅広い役割を果たし

episode 08 | 2007

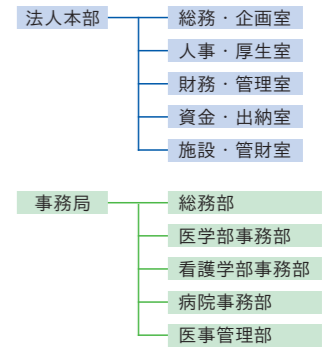


ている。本院のDMATチームは、東日本大震災、熊本地震などの地震災害だけでなく、2019年台風15号・19号大規模災害、ダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス対応など、幅広く活躍している。

episode 08
キャンパス再整備

新病院建設を目指して2007年から始まった「愛知医科大学キャンパス再整備」は2018年3月のドクターヘリ格納庫完成をもって完了した。保育所「アイキッズハウス」の開設、学生の学習施設である医心館の開設、名鉄バス及び地域コミュニティバス専用ロータリーの整備、そして、教職員・学

episode 09 | 2010



生を始め来院者等も利用できるアメニティ棟「立石プラザ」が開設された。

episode 09
事務組織の整備

大学・病院の事務組織は、社会情勢の変化や時代のニーズに合わせた対応ができるよう、組織改編が行われてきた。2010年度の事務組織の再編整備が現状の事務組織の基礎となっている。

episode 10
地域連携

地域の発展と、人々の健康づくりに寄与するため、2012年1月に長久手市、北名古屋、2013年10月に尾張

2002 >> 2019

episode 10 | 2012



旭市と包括連携協定を締結した。地域医療の充実、教育・文化や生涯学習の推進、地域のまちづくりの推進、人材育成に関する取り組みを相互間で活性化し、これらの協働した事業を円滑かつ活発に進めている。

episode 11 シンボルマークの制定

2013年11月1日にシンボルマークを制定。愛知の「A」を基本形に、医科の「I」と「K」、さらには「人」という文字をイメージしており、医療メスと水平線に見立てたラインは、人と地域に貢献する医療の在り方を表現。大学は知識と冷静さを感じさせる深いブルーからグリーンへのグラデーション、

episode 11 | 2013



大学病院は自然豊かな長久手の環境をイメージしたグリーンのグラデーションで表現されている。

episode 12 Student Doctor

2014年度から臨床実習を行う医学部5学年次生に対し、医療人としての自覚と責任感を持って実習に取り組む姿勢や医師としてのプロフェッショナルリズムの育成を目的に「Student Doctor」の称号を授与することとなり、第1回の認証式が2014年4月2日に行われた。

episode 12 | 2014



episode 13 新病院（中央棟）開院

2006年5月に「新病院建設委員会」が設置され検討をスタートさせた新病院計画は、リーマンショックの影響から一時中断したものの、2014年初頭の開院に向けて、2011年から本格的に稼働し始めた。「Plus Ultra：創造する未来へ」、「元気ホスピタル～あなたを元気にする・私も元気になる～」2つの行動指針のもと、「生活時間の最大活用、医療の可視化、地域との協力」というコンセプトに基づき、2014年5月9日に最先端の施設と充実した診療環境を備えた新病院（中央棟）が開院した。

episode 13 | 2014



episode 14 基本方針と行動指針の制定

2015年10月17日の常任理事会において新たな基本方針「社会から評価され、選ばれる医科大学」が制定され、併せて3つの行動指針「選ばれる医科大学」、「安心・親切・快適」、「自主自立・向上・協調」が制定された。

episode 15 大学評議会から大学運営審議会へ

本学における重要な事項は2000年4月以降「大学評議会」で審議してきたが、2015年度の改正学校教育法の趣旨に鑑み、従来の組織を見直すこと

episode 15 | 2016



となった。2016年4月に、新たな審議組織として、学長と副学長を中心とした「大学運営審議会」が設置された。

episode 16 学是「具眼考究」の制定

建学の精神は不変であるものの、建学から既に50年近く経過していること、大学を取り巻く環境が大きく変動していることなどを踏まえ、2017年に大学職員等にとってシンプルで理解しやすい、共感できる基本理念として、学是「具眼考究」を制定した。「具眼」とは、医学的には「正しくみる（診る・看る・視るなど）」ことを意味し、患者を全人的に把握する感性により、病気とともに病人をみることを指す。「考究」

episode 16 | 2017



とは具眼によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指す。

episode 17 第1回オープンホスピタル

2018年11月3日、地域住民の方々に愛知医科大学病院をより深く知っていただくことを目的に、本院初となる「オープンホスピタル」を開催。来場者は1,000名を超え、ステージ公演や児童向けの医療体験、栄養相談を始めとしたさまざまな企画に多くの方が参加した。

ドクターヘリ導入



5,000回出動達成 (2013年)



ドクターヘリ格納庫整備 (2018年)



国際交流



オウル大学での授業風景 (2004年)



南イリノイ大学にて (2005年)



ケース・ウェスタン・リザーブ大学関係者来学 (2010年)



コンケン大学協定調印式 (2011年)



コンケン大学学生とともに (2015年)



マハサラカム大学留学生来学 (2020年)

駐車場整備



外来駐車場増設工事に伴う看護専門学校・女子寮の解体 (2004年)



外来駐車場オープンテープカット

増設された外来駐車場 (2004年)



雁又グラウンド駐車場整備 (2008年)

教育・研究環境の充実



総合学術情報センター



加齢医科学研究所



加齢医科学研究所 30周年記念講演会 (2013年)



シミュレーションセンター



運動療育センター開設20周年研究発表会 (2008年)



運動療育センター



研究創出支援センター



医学教育センター



分子医科学研究所



総合医学研究機構



保育所「アイキッズハウス」外観（2009年）



保育所「アイキッズハウス」内観



庭園の遊具



新立体外来駐車場（2009年）



駐車場内観



屋上階駐車場



医心館外観 (2009年)



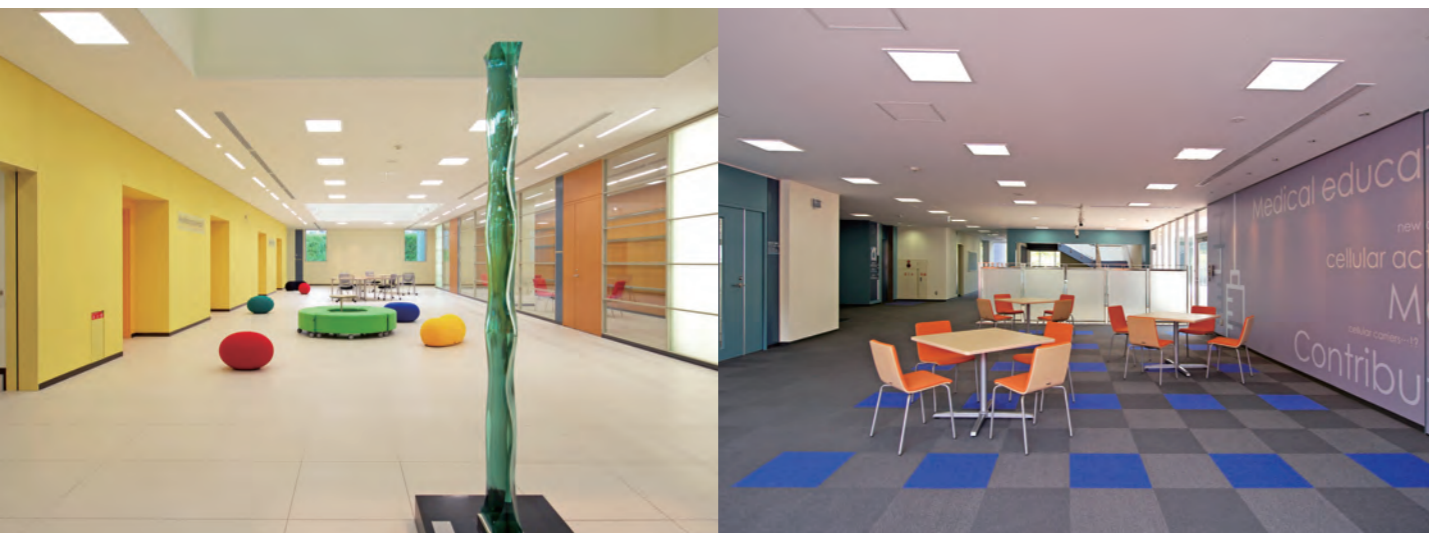
C棟・D棟改修 (2014年)



C棟3階こころのケアセンター



C棟4階4床室



医心館内観



第15駐車場整備 (2016年)



歩道橋 (2016年)



立石プラザ (アメニティ棟) 外観 (2017年)



バスロータリー (2017年)



2階フードコート



3階交流ラウンジ



3階個室

キャンパス再整備



ドクターヘリ格納庫 (2018年)



2018年4月30日に開催されたドクターヘリ格納庫運用 ~キャンパス再整備完了~ 式典

地域連携



中部先端医療開発円環コンソーシアムに関する協定 (2012年)



北名古屋市包括連携協定 (2012年)



長久手市・株式会社長久手温泉との提携 (2013年)



尾張旭市包括連携協定 (2013年)



長久手高等学校と高大連携協定 (2017年)



長久手市大学連携推進ビジョン 4U (2018年)



あいち小児保健医療総合センターと連携・協力の推進に関する協定 (2019年)



A・IMAT 協定 (2019年)

新病院（中央棟）開院



新病院（中央棟）外観



オアシスホール



小児科外来待合



待合ロビー



レストラン



屋上庭園



ハイブリッド手術室



開院記念テープカット



寄附者銘板除幕参加者による記念撮影



医療福祉建築賞準賞受賞



特別室



屋上ヘリポート

| これから |

2020 >>

時代の一步先を見据え、 先進の医療を人と社会と 未来へつないでいく

キャンパス再整備が完了し、「人、ソフト、システムの整備と開発へ」と次のステップへ歩み始めた。その矢先、世界全体が新型コロナウイルス感染症による未曾有の危機に見舞われた。この試練のなか、本学は逆境を強靱な団結へと変えて、いち早く新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ。

また、地域医療への貢献を果たすべく、医療連携強化、救急医療体制改革などの新たなプロジェクトが進行、2021年4月には、岡崎市北部に地域の中核病院となるべくメディカルセンターが開院した。さらに2022年7月には、メディカルクリニックが、最先端の眼科医療を提供する産学協同の拠点、眼科クリニック MiRAI として生まれ変わった。創立50周年を迎えた愛知医科大学は、時代の一步先を見据え、先進の医療を人と社会と未来へつないでいく。

episode 01 | 2020



episode 01

新型コロナウイルス感染症への対応 (大学)

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めるため、2020年4月に「新型コロナウイルス対策委員会」を発足した。教職員及び学生が自律的に行動する上で参考となる「愛知医科大学の活動基準」を策定し、①教育（講義・演習・実習など）、②研究活動、③学生の入構制限、④課外活動、⑤教職員、⑥会議・セミナー、⑦出張・旅行の活動に関して5段階のレベルを設け、委員会において定期的にレベルの見直しを行い、ホームページ等により周知している。

学生講義は、WEB配信としたが感

episode 02 | 2020



episode 02

染拡大状況を考慮しながらWEB講義と来学聴講のハイブリッド形式を導入するとともに、遠隔授業に必要な機器等を購入するための経済的支援を全学生に対し実施した。

episode 02

新型コロナウイルス感染症への対応 (病院)

愛知医科大学病院では、2020年4月に院内外の情報収集、今後の新型コロナウイルス対策の立案及び実施を目的とし、「新型コロナウイルス関連連絡本部」を設置した。待合室における3密を避ける運営、病院職員の活動基準を策定するとともに、同年5月からは、全来院者に対し、入り口制限、発

熱スクリーニング、トリアージメントによる対応などを実施し、さまざまな感染拡大防止対策を講じている。

また、愛知県からの要請に基づき、2021年3月から愛知医科大学病院において、院内医療従事者及び近隣医療従事者に対する新型コロナウイルスワクチン接種を実施。同年7月からは、メディカルセンターが新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場として運用を開始した。

主な出来事

2020年

- 6月1日 ● 医学教育分野別評価適合認定
- 12月5日 ● 看護学部創立20周年記念式典挙

2021年

- 2月25日 ● メディカルセンター開設許可
- 3月18日 ● メディカルセンター使用許可
- 4月1日 ● メディカルセンター開院

2022年

- 6月1日 ● メディカルクリニックを眼科クリニック MiRAI と改称
- 7月1日 ● 眼科クリニック MiRAI 開院
- 11月3日 ● 愛知医科大学創立50周年記念式典挙

2020 >>

episode 03 | 2020



episode 03
医学教育分野別評価

医学部では、国際基準に適合した教育内容全般の評価を受けるため、2019年度に日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を受審し、世界医学教育連盟のグローバル・スタンダードを踏まえた評価基準に適合していることが認定された。認定期間は、2020年6月1日から2027年5月31日までの7年間。

episode 04
看護学部創立20周年

2020年をもって創立20周年を迎えた看護学部は、2020年12月5日に

episode 04 | 2020



「看護学部創立20周年記念式典」をオンライン形式にて開催した。記念式典では、看護学部の創設者の一人であり、初代看護学部長である高橋照子先生による「看護実践の変遷と看護学教育の課題」と題した記念講演、創立20周年記念動画の上映、卒業生から在学生に繋ぐリレーメッセージが行われ、多くの参加者があり盛況のうちに幕を閉じた。
また、輪が幾重にも重なっていき、大きさを増して、人としても看護専門職者としてもさらに成長していくよという意味が込められた、「協調」と「人と人の輪」をイメージした創立20周年記念ロゴが作成された。

episode 05 | 2021



episode 05
メディカルセンター開院

2021年4月1日、愛知医科大学にとって初めての分院となる「愛知医科大学メディカルセンター」が岡崎市北部に開院した。メインコンセプトとして、Family Medicine「開業医、病院などの地域連携ニーズサポートをする、地域包括医療を後方支援していくこと」を掲げ、二次救急から慢性期までの幅広い患者さんを対象に、大学分院ならではの質の高い医療の提供を通して、地域を守り共に生きる中核病院を目指す。また、若い医師らを育てる「教育病院」の機能も充実させていく。

episode 06 | 2022



episode 06
連携大学院の導入

本学と一般社団法人日本造血細胞移植データセンター(JDCHCT)との間で連携・協力に関する協定書を締結し、連携大学院「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」を設置した。2022年1月には日本造血細胞移植データセンターを本学研究棟に移設・開設した。

episode 07 | 2022



episode 07
他機関との連携協定

2022年3月28日、愛知医科大学と愛知学院大学との大学間連携に関する協定を締結。医系大学である本学は、複数の医療系学部を有する愛知学院大学と連携して、学生の臨床教育を行うことで、質の高い専門職に関わる人材育成を進める。
また、2022年4月11日には、愛知医科大学と愛知県がんセンターとの連携・協力の推進に関する基本協定を締結。がんの診療・研究・教育の3つの面で本学の「がん医療」の機能強化を図り、「今まで治せなかったがんを治す」というメッセージを尾張東部医療圏を中心とした地域に発信していく。

episode 08 | 2022



episode 08
眼科クリニック MiRAI 開院

愛知医科大学眼科クリニックMiRAIは、従来の愛知医科大学メディカルクリニックを全面的に改装し、眼科専門の診療所として再編され、2022年7月1日に開院した。愛知医科大学の眼科医が交代制で常駐。難治性緑内障患者治療用レーザー、世界最広角の断層撮影装置等最先端の手術機器、検査機器も導入し、白内障や緑内障、網膜疾患や眼形成疾患等全ての眼科専門領域の診療に対応できる態勢を整えた。さらに株式会社メニコンとの産学連携による近視進行抑制寄附講座を開設し、時代が求める治療・臨床研究の拠点として地域に貢献していく。

新型コロナウイルス感染症への対応



病院正面玄関での発熱スクリーニング



PCR行政検査受付



本院での医療従事者向けワクチン接種



トリアージtent



メディカルセンターでのワクチン大規模集団接種



WEB講義：分散登校時の様子



事務部門によるWEB講義管理



新型コロナウイルス感染症に関する県内4大学との連携と協力に関する協定



愛知県知事からワクチン大規模接種会場協力に関する感謝状贈呈

看護学部創立20周年記念式典挙行



祖父江理事長・学長あいさつ



坂本看護学部長あいさつ



講演する高橋先生



開催案内リーフレット

他機関との連携協定



大学コンソーシアムせと入会協定 (2020年)



愛知学院大学との協定 (2022年)



愛知県がんセンターとの連携・協力の推進に関する協定 (2022年)

メディカルセンター開院



メディカルセンター外観



エントランスホール



リハビリテーション室



開院記念式典理事長あいさつ



開院記念式典除幕式



病室



採血室

眼科クリニックMiRAI開院



眼科クリニックMiRAI外観



開院記念式典テープカット



開院記念式典



手術室



受付



検査室

未来につながる躍進する姿

医学部 医学の研究に豊かな思考力と創造性を発揮し、常に医学の進歩に対応しつつ、高度な知識・技術を身につけた医師・医学者が求められるなか、本学医学部は、ヒューマンズムに徹し、医学・医療の社会的使命を進んで果たす医師を養成することを目指している。

時代の要請に即した授業科目を取り入れ、6年間の一貫教育としてカリキュラムを編成している。低学年では、コミュニケーション能力や問題解決能力を高めるとともに、自主性の向上のため一部の授業科目で少人数教育を取り入れている。医学部では、講義や実習を通じて、基礎医学から臨床医学まで幅広い分野にわたって知識を身につけるとともに、医療従事者としての責任ある態度や価値観を育むことを目指している。



学生の研究成果

本学医学部 Medical Science Club の学生は2020年、解剖学の教科書『骨学のすゝめ』を出版した。本書は、学生自らがアイデアを持ち寄り、解剖学講座・中野隆教授（当時）の

指導の下、解剖学を振り返りながら5年の歳月をかけて纏め上げたものである。本書のプロジェクトは、2016年の第121回日本解剖学会全国学術集会において学生セッション優秀発表賞、翌年の第122回同学会において献体協会賞トラベルアワードを受賞した。

我が国にも未だに多くの医療過疎地域が存在することから、より良いへき地・離島医療の実現を目指して「へき地・離島救急医療学会」が設立されている。本学医学部学生は、2016年の同学会第20回学術集会において、同学会としては初めての発表を行い、注目を浴びた。その後も、学生の立場からへき地医療の在り方について発表し、賞賛を得た。



第122回日本解剖学会全国学術集会での表彰式において、中野教授（当時）とともに



出版社：南江堂



第20回へき地・離島救急医療学会学術集会での発表風景

看護学部

本看護学部は、看護の対象となる人々との信頼関係を築き、人間尊重を基盤とした豊かな人間性と思いやりのあるケアを提供できる看護専門職者を養成するとともに、国際的にも社会貢献しうる質の高い実践者や教育・研究者になりうる看護専門職者の育成を目指している。

若い家族や高齢者、外国人など多様な人々の生活拠点として発展している地域である長久手市の特性を活かし、1学年次から多様な世代、多様な場における人々の健康支援について学んでいく。また、特定機能病院であり、高度救命救急センターを擁する愛知医科大学病院の特徴を踏まえ、段階的な学修を重ね、多様な状況に対応できる看護実践力の基盤を形成し、4年間を通じて人間性・地域性・国際性と看護専門職者としての判断力を身につけていく。



総合学術情報センター

総合学術情報センターは、知の拠点として、さまざまな媒体の学術情報を蓄積し、利用できる場であり続けるとともに、学生がICTを利活用して「自ら学修し、

自ら気づき、自ら成長する」拠点としても整備されている。センターには、図書館、マルチメディア教室等、学生の学修スタイルに合わせた空間が広がっている。

図書館では、閲覧席、個人ブース、利用者用パソコン、グループ学修室等、快適な学修環境を備え、学生の情報リテラシー（活用能力）の養成、さまざまな学修支援にも積極的に取り組んでいる。

マルチメディア教室では、1人1台の端末（パソコン）を設置、前方には大型スクリーンも設置している。用途に応じて自由に利用できる少人数セミナー室、常時開放のオープン利用室もある。

また、レポート作成で使用する文書作成ソフト、医療英語を修得する英語学習ソフト等、授業や自主学習、問題解決型学修で活用できるソフトウェアが充実している。



シミュレーションセンター

臨床技能の修得及び向上を目的に、医学部生ばかりでなく看護学部生や研修医、スキルアップを目指す医師や看護師も利用できるシミュレーションセンターを開設。高機能の人体シミュレーターを用いた各種トレーニングや基本手技トレーニングなど、実践的な教育の場として低学年次から高学年次まで積極的に活用している。

2019年6月にはスペースを拡大、さらに2021年には全国の医科大学に先駆けて最新の映像収録・配信システムを導入した。L字型のプロジェクター投影面は、スクリーン仕様で全5面投影可能。授業の様子をビデオ撮影し、収録したアーカイブをeラーニング教材として利用するほか、Zoomで映像配信を行うなど、多様なスタイルで活用されている。また、より高機能のシミュレーターを始め各種機器を新たに導入するなど、臨床教育のための充実した環境を整えている。



医心館

大学本館に隣接する医心館は、主に医学部6学年次生及び看護学部4学年次生が利用しており、国家試験に向けてお互いにディスカッションできるグループ学修の場としてセミナー室が整備されている。国家試験が終了するまでの期間、医学部生は7時～24時まで、看護学部生は7時～22時まで使用することができ、ディスカッションしながら学修することで学力の向上を図っている。



白衣式 白衣式では、共用試験（CBT、Pre-CC OSCE）に合格し、臨床実習への参加が認められた医学部4学年次生に対して「Student Doctor」の称号が授与され、学生は新しい実習衣を身につけ白衣式に臨む。臨床実習に臨むにあたっての心構えなどを4学年次生全員で話し合い作成した「学生宣誓文」を代表者が読み上げる。

白衣式は、形式的な通過儀礼ではなく、4学年次生全員が自覚を持ち、モチベーションを高めることにつながっている。



キャンドルセレモニー

キャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たにする場として看護学部2学年次生の実行委員が中心となって企画し、一致団結して運営しているものである。学生一人ひとりが看護学部長から手渡された燭台に、ナイチンゲール像の灯火を受け継ぐ。

本格的に始まる看護学の修得に力を注ぎ、自覚と責任、協調性を持ちながら、自分のなりたい看護師像に近づくことを目指していく。



▶ 挑戦を続ける愛知医科大学

かけがえないキャンパスライフ

キャンパス

豊かな緑と自然に囲まれ、学びを深める充実した教育環境が整っている。本学のある長久手市は、空気のきれいな文教地区としても有名で、大学の近くには長久手市文化の家や長久手市中央図書館といった施設から、カフェやレストラン、各種生活施設等も揃っている。

さらに、2022年9月にはキャンパス内にスターバックスコーヒーがオープン。学生はもちろん、教職員や患者さん、地域の方にとっての憩いの場となっている。



医大祭

普段は勉学に励み、日々努力し続けている学生たちが、年に1度の医大祭で自己や他者を楽しませられる機会を作ること为目标に、さまざまなイベントを企画している。

愛知医科大学が今まで以上に地域に根差した大学、地域密着医療を提供する病院となっていくためにも、多くの地域住民の方々と一緒になって楽しめる医大祭を目指していきたい。



部活・同好会

部活・同好会活動が盛んなことは、愛知医科大学の伝統である。

学年、学部を超えて趣味や興味を共有できる仲間と出会い、ともに熱中できる有意義な時間を過ごすことは、かけがえない財産になる。



高橋選手の活躍

高橋周治選手は日本陸上競技選手権大会（男子100m）に3大会連続で出場したトップランナー。2016年・2017年は2大会連続で7位入賞、2018年は準決勝出場を果たした。医学部最終学年で臨んだ2019日本学生陸上競技個人選手権（男子100m）では3位となった。（タイム10秒46）

部活・同好会一覧

- アイスホッケー部
- ボード部
- ワンダーフォーゲル部
- 弓術部（和弓・アーチェリー）
- ソフトテニス部
- HIAMU
(Heart In Aichi Medical University)
- 軽音楽部
- 東洋医学研究会
- 合気道部
- 剣道部
- バスケットボール部
- ACSIS
(Aichi Clinical Skills Improving Society)
- 硬式庭球部
- バドミントン部
- アンサンブル同好会
- 硬式野球部
- バレーボール部
- 棋道同好会
- ゴルフ部
- ハンドボール部
- Medical Science Club (MSC)
- サッカー部
- ボウリング部
- 卓球同好会
- 水泳部
- ラグビーフットボール部
- スキー部
- 陸上競技部

(2022年4月現在)

高度医療

大学病院ならではの高度な医療を提供するために、常に新たな医療技術を取り入れ、最先端医療の実現に力を注いでおり、ハイブリッド手術室を含む19室の手術室、87床のICU系病床、各種最新機器等、高度な専門医療に対応するための環境を整えている。

がんをピンポイントに照射する定位放射線治療（SRT、SBRT）や強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）など、放射線治療を短時間で高精度に行うことが可能な高精度放射線治療装置「True Beam STx」を導入している。また、手術中に治療部位を3D-CT画像で確認し、精度の高い手術を行うことができる、最新鋭の術中イメージングシステム「O-arm O2」を導入し、高齢化により増加する脊椎の変性疾患に対する治療として、スクリュー（ボルト）で脊椎を固定する脊椎固定術を行う際に活用している。患者さんに優しい、安全かつ安心できる高度な検査や治療が実施できるよう努めている。



ハイブリッド手術室



中央臨床検査部



エアシューター



ダ・ヴィンチ



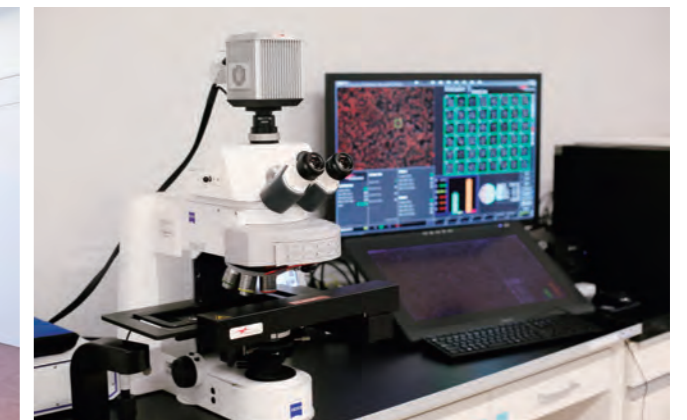
True Beam STx



O-arm O2



256列 面検出器CT



ImagerZ2

救急医療の体制

ドクターヘリ 2002年1月から愛知医科大学病院を基地病院としたドクターヘリシステムが全国で4番目の事業としてスタート。2022年4月現在、全国で56機のドクターヘリが配備されている。

ドクターヘリとは、救急処置を必要とする重篤な患者さんが発生した際に医療スタッフを派遣する、救急専用のヘリコプターである。救急医療専門の医師・看護師が迅速に出動できる体制を整えており、直ちに治療を開始し容体の安定化を図り、患者さんに最も適切な医療機関に搬送することにより、予後の飛躍的な改善に貢献している。

本院は、年間約400回の出動要請に応じており、活動範囲は大学病院から半径70km圏内が中心である。大規模災害発生時にはヘリコプターの機動性を如何なく発揮できるよう、隣接各県（岐阜・三重・静岡・長野）のドクターヘリとも連携できる体制が構築されている。



三次初療室



EICU

ドクターカー 医師と看護師が同乗し、適切な処置を行いながら患者さんを搬送する救急車。本院では転院搬送や被災地への医療支援など、さまざまな目的でドクターカーが運用されている。



DMAT DMATは、災害現場での救命処置や災害拠点病院の支援、重症患者の広域医療搬送などを行う機動性を持った専門的な訓練を受けたチームである。愛知医科大学病院のDMATは5チームあり、1チームあたり4～5名で構成されている。

東日本大震災、熊本地震などの地震災害だけでなく、2019年の台風15号・19号大規模災害、ダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス対応のために、DMAT隊員を派遣している。また、集団災害発生時に精神保健医療活動を行うチームDPATを、熊本地震の被災地へ派遣するなど、愛知DMAT指定医療機関として、精力的な活動を続けている。



熊本地震派遣
熊本県庁DMAT調整本部 愛知DMAT・兵庫DMATと愛知医科大学病院DMAT



ダイヤモンド・プリンセス号での新型コロナウイルス対応



東日本大震災派遣
宮城県庁職員と愛知医科大学病院DMAT



東日本大震災派遣 宮城県南三陸町仮設診療所 南三陸病院看護師と

研究成果

ビッグデータ解析による臨床研究が海外の学術誌にも掲載されるなど、本学の研究活動は高い成果を挙げている。



Article
Structure of pathological TDP-43 filaments from ALS with FTL D

https://doi.org/10.1038/s41586-021-04199-3
 Received: 3 August 2021
 Accepted: 2 November 2021
 Published online: 8 December 2021
 Check for updates

Diana Arseni¹, Masato Haegawa¹, Alexey G. Murzin¹, Fuyuki Kametani¹, Makoto Arai¹, Mari Yoshida¹ & Benjamin Rybakowski Falcon^{1,2}

The abnormal aggregation of TAR DNA-binding protein 43 kDa (TDP-43) in neurons and glia is the defining pathological hallmark of the neurodegenerative disease amyotrophic lateral sclerosis (ALS) and multiple forms of frontotemporal lobar degeneration (FTLD)^{1,2}. It is also common in other diseases, including Alzheimer's and Parkinson's. No disease-modifying therapies exist for these conditions and early diagnosis is not possible. The structures of pathological TDP-43 aggregates are unknown. Here we used cryo-electron microscopy to determine the structures of aggregated TDP-43 in the frontal and motor cortices of an individual with ALS with FTLD and from the frontal cortex of a second individual with the same diagnosis. An identical amyloid-like filament structure comprising a single protofilament was found in both brain regions and individuals. The ordered filament core spans residues 282–360 in the TDP-43 low-complexity domain and adopts a previously undescribed double-spiral-shaped fold, which shows no similarity to those of TDP-43 filaments formed *in vitro*³. An abundance of glycine and neutral polar residues facilitates numerous turns and restricts β -strand length, which results in an absence of β -sheet stacking that is associated with cross- β amyloid structure. An uneven distribution of residues gives rise to structural and chemically distinct surfaces that face external densities and suggest possible ligand-binding sites. This work enhances our understanding of the molecular pathogenesis of ALS and FTLD and informs the development of diagnostic and therapeutic agents that target aggregated TDP-43.

Nature | Vol 601 | 6 January 2022

Article
Structures of α -synuclein filaments from multiple system atrophy

https://doi.org/10.1038/s41586-020-2287-6
 Received: 5 February 2020
 Accepted: 22 April 2020
 Published online: 27 May 2020
 Check for updates

Manuel Schweizer^{1,2}, Yang Shi^{1,2}, Ari Tarantini^{1,2}, Fuyuki Kametani¹, Alexey G. Murzin¹, Bernardino Ghetti^{1,2}, Tomoyasu Matsumoto¹, Tamaha Tamura¹, Takashi Ando¹, Kazuo Hasegawa¹, Shigenori Murayama¹, Mari Yoshida¹, Masato Haegawa¹, Bjorn H. W. Scharn^{1,3} & Michal Goedert^{1,2,4}

Synucleinopathies, which include multiple system atrophy (MSA), Parkinson's disease, Parkinson's disease with dementia and dementia with Lewy bodies (DLB), are human neurodegenerative diseases¹. Existing treatments are at best symptomatic. These diseases are characterized by the presence of, and believed to be caused by, the formation of filamentous inclusions of α -synuclein in brain cells^{1,2}. However, the structures of α -synuclein filaments from the human brain are unknown. Here, using cryo-electron microscopy, we show that α -synuclein inclusions from the brains of individuals with MSA are made of two types of filament, each of which consists of two different protofilaments. In each type of filament, non-proteinaceous molecules are present at the interface of the two protofilaments. Using two-dimensional class averaging, we show that α -synuclein filaments from the brains of individuals with MSA differ from those of individuals with DLB, which suggests that distinct conformers or strains characterize specific synucleinopathies. As in the case with tau assemblies^{3,4}, the structures of α -synuclein filaments extracted from the brains of individuals with MSA differ from those formed *in vitro* using recombinant proteins, which has implications for understanding the mechanisms of aggregate propagation and neurodegeneration in the human brain. These findings have diagnostic and potential therapeutic relevance, especially because of the unmet clinical need to be able to image filamentous α -synuclein inclusions in the human brain.

Nature | Vol 585 | 10 September 2020

Article
Structure-based classification of tauopathies

https://doi.org/10.1038/s41586-021-03991-7
 Received: 1 June 2021
 Accepted: 13 August 2021
 Published online: 29 September 2021
 Check for updates

Yang Shi^{1,2}, Wenjuan Zhang^{1,2}, Yang Yang¹, Alexey G. Murzin¹, Benjamin Falcon¹, Akhoy Khatiwala¹, Mike van Breen¹, Ari Tarantini¹, Fuyuki Kametani¹, Holly J. Garringer¹, Ruben Vidal¹, Grace L. Halliday¹, Tammyrui Lambiri¹, Yoko Sato¹, Shigenori Murayama¹, Mari Yoshida¹, Hidetomo Tawaka¹, Akhoy Khatiwala¹, Takashi Ando¹, Andrew C. Robinson¹, David M. A. Mann¹, Gabo G. Kovacs^{1,3}, Tamas Kovacs¹, Bernardino Ghetti¹, Masato Haegawa¹, Michel Goedert^{1,2,4} & Bjorn H. W. Scharn^{1,5}

The ordered assembly of tau protein into filaments characterizes several neurodegenerative diseases, which are called tauopathies. It was previously reported that, by cryo-electron microscopy, the structures of tau filaments from Alzheimer's disease¹, Pick's disease², chronic traumatic encephalopathy³ and corticobasal degeneration⁴ are distinct. Here we show that the structures of tau filaments from progressive supranuclear palsy (PSP) define a new three-layered fold. Moreover, the structures of tau filaments from globular glial tauopathy are similar to those from PSP. The tau filament fold of argyrophilic grain disease (AGD) differs, instead resembling the four-layered fold of corticobasal degeneration. The AGD fold is also observed in aging-related tau astroglialopathy. Tau protofibril structures from inherited cases of mutations at positions +3 or +16 in intron 10 of *MAPT* (the microtubule-associated protein tau gene) are also identical to those from AGD, suggesting that relative overproduction of four-repeat tau can give rise to the AGD fold. Finally, the structures of tau filaments from cases of familial British dementia and familial Danish dementia are the same as those from cases of Alzheimer's disease and primary age-related tauopathy. These findings suggest a hierarchical classification of tauopathies on the basis of their filament folds, which complements clinical diagnosis and neuropathology and also allows the identification of new entities—as we show for a case diagnosed as PSP, but with filament structures that are intermediate between those of globular glial tauopathy and PSP.

Nature | Vol 598 | 7 October 2021

THE NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE

ORIGINAL ARTICLE

Inhaled GM-CSF for Pulmonary Alveolar Proteinosis

R. Tazawa, T. Ueda, M. Abe, K. Tatsumi, R. Edaj, S. Kondoh, K. Morimoto, Takeshi Tanaka, E. Yamaguchi, A. Takahashi, M. Oda, H. Ishii, S. Izumi, H. Sugiyama, A. Nakagawa, K. Tomii, M. Suzuki, S. Korno, S. Ohkouchi, N. Tode, T. Handa, T. Hirai, Y. Inoue, T. Arai, K. Asakawa, T. Sakagami, A. Hashimoto, Takahiro Tanaka, T. Takada, A. Mikami, N. Kitamura, and K. Nakata

N ENGL J MED 381:10 NEJM.ORG SEPTEMBER 5, 2019

THE NEW ENGLAND JOURNAL OF MEDICINE

ORIGINAL ARTICLE

Inhaled Molgramostim Therapy in Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis

B.C. Trapnell, Y. Inoue, F. Bortella, C. Morgan, S. Jouneau, E. Bendstrup, J. Campo, S.A. Papiris, E. Yamaguchi, E. Cetinkaya, M.M. Ilkovich, M.R. Kramer, M. Veltkamp, M. Kreuter, T. Baba, C. Ganslandt, L. Farnow, G. Waterer, and T. Jouhikainen, for the IMPALA Trial Investigators¹

N ENGL J MED 383:17 NEJM.ORG OCTOBER 22, 2020

Seminar

Amyotrophic lateral sclerosis

Amyotrophic lateral sclerosis is a fatal CNS neurodegenerative disease. Despite intensive research, current management of amyotrophic lateral sclerosis remains suboptimal from diagnosis to prognosis. Recognition of the phenotypic heterogeneity of amyotrophic lateral sclerosis, global CNS dysfunction, genetic architecture, and development of novel diagnostic criteria is clarifying the spectrum of clinical presentation and facilitating diagnosis. Insights into the pathophysiology of amyotrophic lateral sclerosis, identification of disease biomarkers and modifiable risks, along with new predictive models, scales, and scoring systems, and a clinical trial pipeline of mechanism-based therapies, are changing the prognostic landscape. Although recent research advances have yet to translate into patient benefit, the idea of amyotrophic lateral sclerosis as a complex syndrome is already having tangible effects in the clinic. This Seminar will outline these insights and discuss the status of the management of amyotrophic lateral sclerosis for the general neurologist, along with future prospects that could improve care and outcomes for patients with amyotrophic lateral sclerosis.

Annals 2022; 0(0): 1-6

公開講座

本学は、日常的な病気から重病までさまざまな病気の予防や治療・対処法などについて、一般の方に分かりやすく理解してもらうため、公開講座を開催している。また、名古屋市、長久手市、尾張旭市及び瀬戸市の施設において、自治体と連携した市民公開講座も開催している。



オープンホスピタル

大学病院では、2018年度から地域住民を対象に愛知医科大学病院をより深く知っていただくために「オープンホスピタル」を開催。ステージ公演や児童向けの医療体験、栄養相談を始めとした企画に多くの方々に参加されており、なかでも、診療放射線技師仕事体験、薬剤師仕事体験、ちびっこ医師・看護師体験などの体験コーナーは子どもたちに大人気のイベントである。





50th anniversary project

創立 50 周年記念事業

教育・研究・診療のさらなる充実を図るため、創立 50 周年記念事業の 10 の取り組みをご紹介します。

詳しくは、右記 URL「愛知医科大学創立 50 周年記念サイト」にてご覧ください。

愛知医科大学創立50周年記念サイト
<https://amu-50th.com/>



05



スターバックスの誘致

人と人、人と病院、人と自然をつなぐ。立石池やその周辺に広がる四季折々の風景を眺めながら、学生や教職員、さらに地域住民の方々の交流や憩いの場に幅広く利用いただくことを目指していく。

06



レストラン「オレンジ」の改修

ガラス張りの明るく開放的な雰囲気のレストラン「オレンジ」。これまでは学生の食事の場として、また学生同士の憩いの場として利用されてきた。これからは食事以外の時間は自習の場として利用できるよう大規模な改修工事が進んでいる。

01



メディカルセンター開設

二次救急から慢性期までの幅広い患者さんを対象に、大学病院分院ならではの質の高い医療の提供を通して、地域を守り共に生きる中核病院を目指す。また、若い医師らを育てる「教育病院」の機能も充実させていく。

02



日本造血細胞移植データセンター移転・開設

愛知医科大学と一般社団法人日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）との間で連携・協力に関する協定書を締結し、連携大学院「造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座」を設置。2022年1月には日本造血細胞移植データセンターを本学研究棟に移転・開設した。

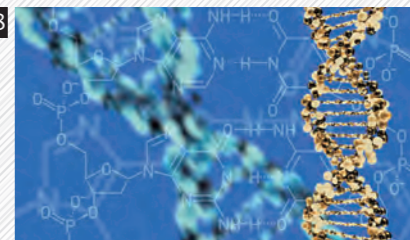
07



リハビリテーション医療の充実

超高齢社会におけるリハビリテーション医療の社会的ニーズに応えるため、2021年7月にリハビリテーション医学講座を開講。生活機能と障害の診断、治療技術において基礎から最新技術に至るまでの実践医療・教育に取り組んでいる。

08



がん医療の推進

2019年10月に「がんセンター」を設置。院内にある多数のがん診療部門を統括する横断的な組織である。診療科の枠を超えた多職種での連携・サポート等を行う「がんの総合診療」の実現を目指していく。

03



眼科クリニック MIRAI 開設

開設から 38 年を迎えたメディカルクリニックは、総合的な診療体制等の抜本的な見直しを行った。株式会社メニコンとの産学連携寄附講座（近視進行抑制）と眼科日帰り手術ラボの設置を中心とした、時代が求める治療・臨床研究の拠点として生まれ変わった。

04



医心館セミナー室拡充

医心館は学習用施設として利用されており、国家試験を控えた学生のグループ学習に必要なセミナー室が設置されている。今後さらなる学習環境の向上を目的に、セミナー室の拡充を行っていく。

09



看護学研究科 博士課程設置構想

博士課程（PhD コース及び DNP コース：Doctor of Nursing Practice）を設置し、看護学分野の研究者や高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成。日本でも数少ない DNP の養成に挑むことで、高度看護実践のトップランナーを目指していく。

10



先進医療研究棟構想

「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」「地域医療・地域貢献の促進」などの 5 つの目標を掲げ、その実現に向けたプロジェクトを充足させていく。



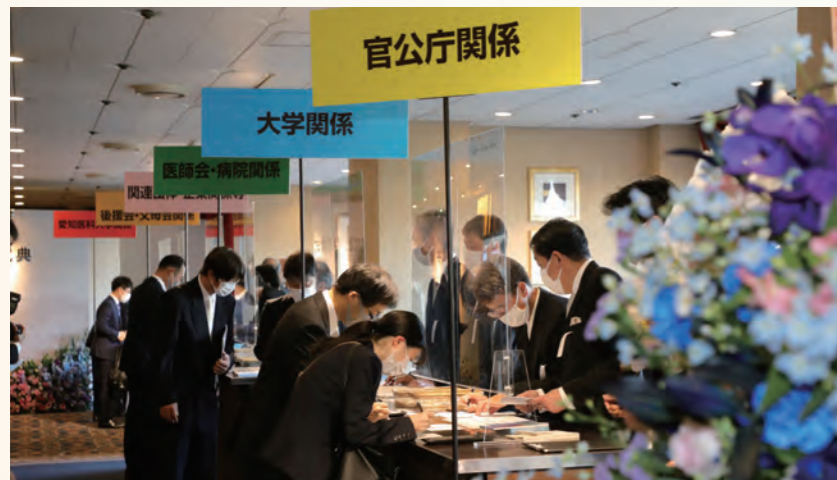
50th Anniversary ceremony

創立 50 周年記念式典

日時 2022年11月3日(木・祝)

会場 名古屋観光ホテル3階「那古の間」

多くの方々のご尽力・ご支援により、無事に創立 50 周年を迎えられましたことに感謝の意を表し、開学記念日である 11 月 3 日に「愛知医科大学創立 50 周年記念式典」を挙行了しました。



式典第1部



司会 浦口史帆
東海テレビアナウンサー



オープニング動画上映



式辞を述べる祖父江元 理事長・学長



発起人代表あいさつ 加藤延夫 元理事長・学長



来賓祝辞



永岡桂子様（文部科学大臣）代読
西條正明様（文部科学省大臣官房審議官（高等教育局及び科学技術政策連携担当））



大村秀章様（愛知県知事）



小川 彰様（一般社団法人日本私立医科大学協会 会長、学校法人岩手医科大学 理事長）



松尾清一様（国立大学法人東海国立大学機構 機構長）



柵木充明様（公益社団法人愛知県医師会 会長）

記念講演

「世界を照らすLED」

名古屋大学 教授 天野 浩様



講演する天野先生

式典第2部



あいさつする笠井謙次 医学部長



来賓祝辞 丹羽秀樹様（衆議院議員）



来賓祝辞 鈴木淳司様（衆議院議員）



佐藤美和様による庄巻のピアノ生演奏

記念イベント



「橘の木」記念植樹の様子



医心館前に植栽された記念樹



同窓生あいさつ 福澤嘉孝 医学部同窓会長

理事長・学長謝辞

Appendix

歴代理事長



初代
太田 元次
(1970.6. ~ 1977.7)



第2代
多湖 實夫
(1977.10 ~ 1985.5)



第3代
仲谷 義明
(1985.6 ~ 1988.11)



第4代
森 泰樹
(1988.12 ~ 1992.1)



第5代
新美富太郎
(1992.3 ~ 2001.1)



第6代
加藤 延夫
(2001.1 ~ 2009.12)



第7代
三宅 養三
(2010.1 ~ 2019.1)



第8代
祖父江 元
(2019.1 ~ 現在)

歴代学長



初代
橋本 義雄
(1972.2 ~ 1976.3)



第2代
太田 元次
(1976.4 ~ 1977.2)



第3代
萩野柳太郎
(1977.3 ~ 1977.7)



第4代
田内 久
(1977.10 ~ 1982.3)



第5代
岡田 博
(1982.4 ~ 1985.3)



第6代
田内 久
(1985.4 ~ 1991.3)



第7代
祖父江逸郎
(1991.4 ~ 2000.3)



第8代
加藤 延夫
(2000.4 ~ 2006.3)



第9代
稲福 繁
(2006.4 ~ 2010.3)



第10代
石川 直久
(2010.4 ~ 2014.3)



第11代
佐藤 啓二
(2014.4 ~ 2020.3)



第12代
祖父江 元
(2020.4 ~ 現在)

Appendix 03

歴代医学部長

代	氏名	任期
初代	小林 正	2000.4～2002.3
第2代	佐賀 信介	2002.4～2006.3
第3代	石川 直久	2006.4～2010.3
第4代	佐賀 信介	2010.4～2014.3
第5代	岡田尚志郎	2014.4～2018.3
第6代	若槻 明彦	2018.4～2022.3
第7代	笠井 謙次	2022.4～現在

Appendix 04

歴代看護学部長

代	氏名	任期
初代	高橋 照子	2000.4～2006.3
第2代	土井まつ子	2006.4～2010.3
第3代	八島 妙子	2010.4～2014.3
第4代	衣斐 達	2014.4～2016.3
第5代	白鳥さつき	2016.4～2018.3
第6代	坂本真理子	2018.4～現在

Appendix 05

歴代病院長

代	氏名	任期
初代	上田 文男	1972.2～1976.3
第2代	太田 元次	1976.4～1977.3
第3代	山本 馨	1977.4～1982.6
第4代	菅原 譲	1982.7～1990.3
第5代	山本 貞博	1990.4～1992.3
第6代	瀧本 勲	1992.4～1994.3
第7代	土岡 弘通	1994.4～1996.3
第8代	小林 正	1996.4～2000.3
第9代	各務 伸一	2000.4～2002.3
第10代	佐藤 啓二	2002.4～2005.3
第11代	太田 敬	2005.4～2007.3
第12代	伊藤 隆之	2007.4～2011.3
第13代	野浪 敏明	2011.4～2014.9
第14代	羽生田正行	2015.4～2019.3
第15代	藤原 祥裕	2019.4～2021.3
第16代	道勇 学	2021.4～現在

Appendix 06

役員・評議員 (2023.2.1 現在)

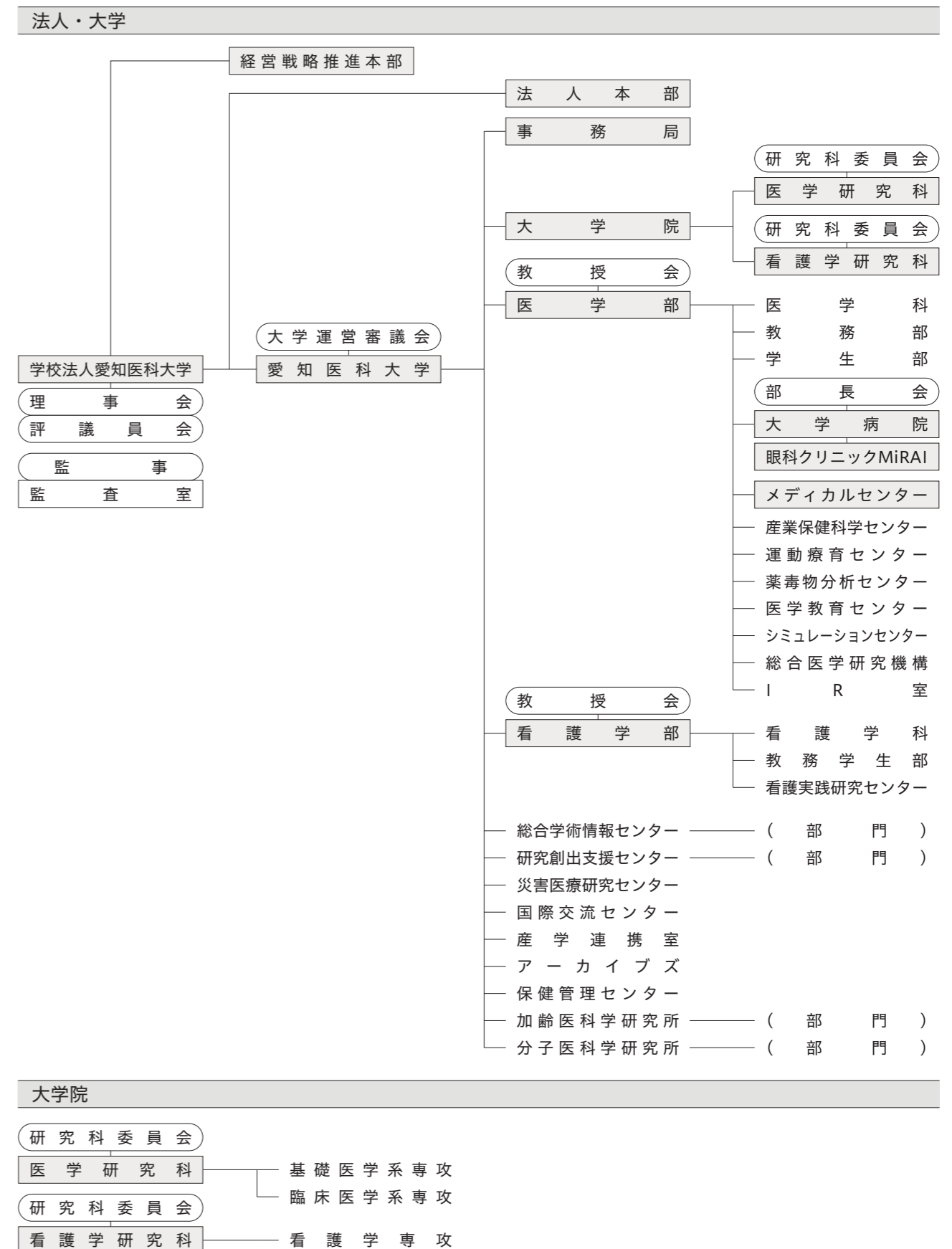
役員				
理事長	祖父江 元			
常任理事	伊藤 恭彦	笠井 謙次	坂本真理子	島田 孝一
	道勇 学	羽生田正行	羽根田雅巳	
理事	岩船 徹雄	内海 眞	齋藤 勉	福澤 嘉孝
	古井 景	柵木 充明	真能 秀久	
監事	岡田 忠	林 清博		(五十音順)

評議員				
天野 哲也	伊藤 健吾	伊藤 恭彦	井上 里恵	岩船 徹雄
内海 眞	笠井 謙次	金森 俊輔	木下 登	齋藤 勉
坂本真理子	佐藤 元彦	島田 孝一	祖父江 元	高橋 佳子
高安 正和	道勇 学	富安 聡	服部 達哉	羽生田正行
羽根田雅巳	早川 真人	福澤 嘉孝	藤澤 恵児	古井 景
細川 好孝	柵木 充明	真能 秀久	村上 恒久	安川 龍也
早稲田勝久				(五十音順)

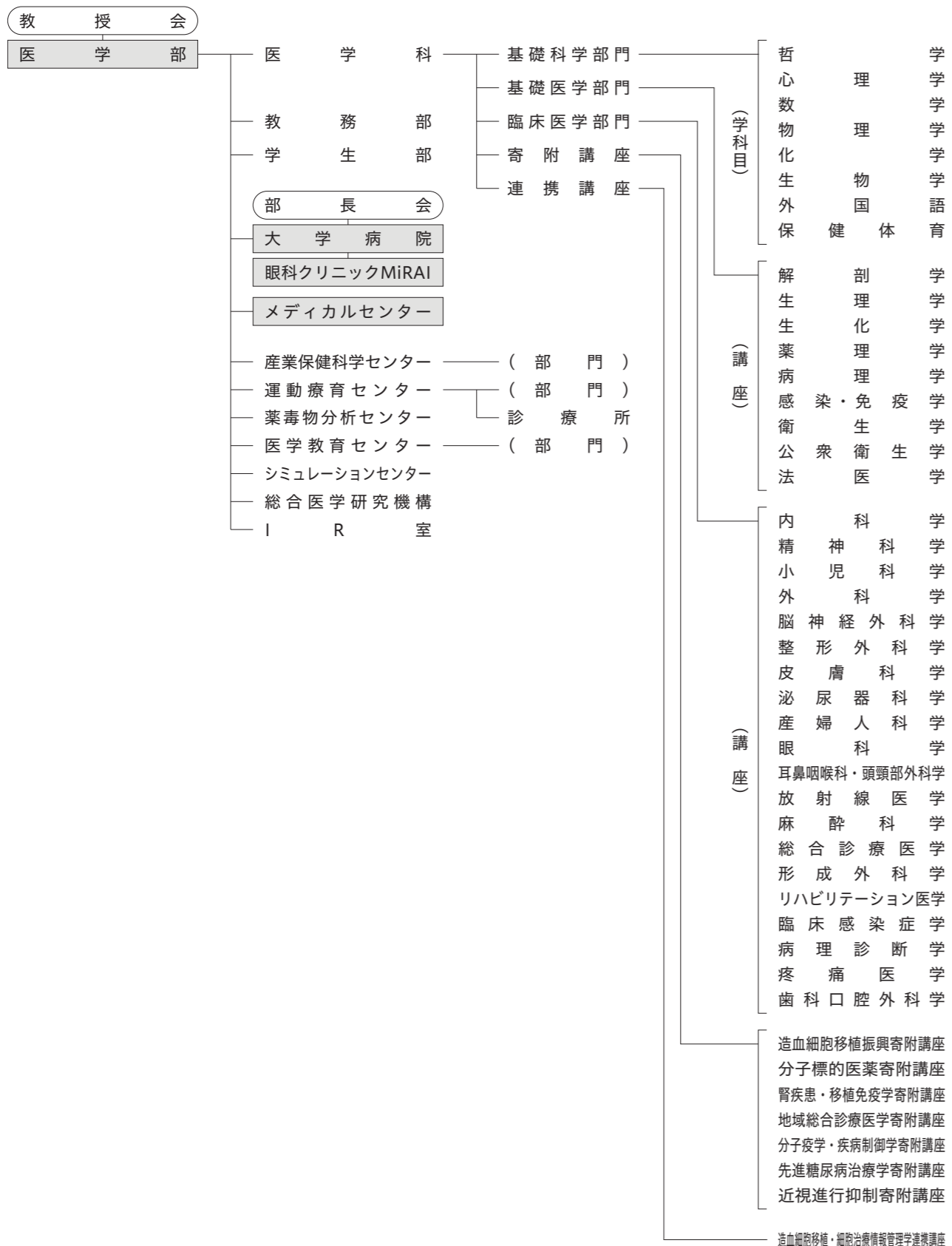
名誉教授 (2023.2.1 現在)

柴田 幸雄 (1994. 4. 1)	小川 徳雄 (1995. 4. 1)	加藤 克己 (1996. 4. 1)	土岡 弘通 (1996. 4. 1)	青木 重久 (1997. 4. 1)
西田 祥藏 (1997. 4. 1)	堀部 博 (1997. 4. 1)	池谷 敏彦 (1999. 4. 1)	侘美 好昭 (2000. 4. 1)	山田 高路 (2000. 4. 1)
成瀬 隆吉 (2001. 4. 1)	藤本 孟男 (2001. 4. 1)	大野 完 (2002. 4. 1)	吉田 行夫 (2003. 1. 1)	深津 英捷 (2003. 4. 1)
綾川 良雄 (2003. 4. 1)	伊藤 元 (2004. 4. 1)	野口 昌良 (2005. 4. 1)	廣岡 良文 (2006. 4. 1)	三井 忠夫 (2006. 4. 1)
青山 久 (2006. 4. 1)	吉野 昌孝 (2006. 4. 1)	中川 洋 (2006. 4. 1)	川出富貴子 (2006. 4. 1)	高野 順子 (2006. 4. 1)
加藤 延夫 (2006. 4. 1)	野田 愛司 (2007. 4. 1)	木全 弘治 (2007. 4. 1)	高橋 照子 (2007. 4. 1)	佐橋 功 (2008. 4. 1)
松原 昌樹 (2008. 4. 1)	野口 宏 (2009. 4. 1)	原 一夫 (2009. 4. 1)	齋藤 征夫 (2009. 4. 1)	稲福 繁 (2010. 4. 1)
小松 徹 (2010. 4. 1)	橋詰 良夫 (2010. 4. 1)	松本 義也 (2010. 4. 1)	山田 史郎 (2011. 4. 1)	本多 靖明 (2011. 4. 1)
菅屋 潤壹 (2011. 4. 1)	伊藤 隆之 (2011. 4. 1)	木村 英作 (2012. 4. 1)	房岡 秀郎 (2012. 4. 1)	高本 滋 (2012. 4. 1)
長谷川高明 (2012. 4. 1)	伊藤 義昭 (2013. 4. 1)	小幡 剛隆 (2013. 4. 1)	岡田 忠 (2013. 4. 1)	鶴澤 正仁 (2013. 4. 1)
太田 敬 (2013. 4. 1)	仁田 正和 (2013. 4. 1)	石川 直久 (2014. 4. 1)	二村 真秀 (2014. 4. 1)	佐藤英佐子 (2014. 4. 1)
横井 豊治 (2014. 10. 1)	福富 隆志 (2014. 10. 1)	野浪 敏明 (2014. 10. 1)	横地 高志 (2015. 4. 1)	岩城 正佳 (2015. 4. 1)
磯部 文隆 (2015. 4. 1)	浅本 憲 (2015. 4. 1)	土井まつ子 (2015. 4. 1)	佐賀 信介 (2016. 4. 1)	小林 章雄 (2016. 4. 1)
今井 裕一 (2017. 4. 1)	大竹 千生 (2017. 4. 1)	石口 恒男 (2018. 4. 1)	小島 貞男 (2018. 4. 1)	中川 隆 (2018. 4. 1)
小寺 良尚 (2018. 4. 1)	八島 妙子 (2018. 4. 1)	白鳥さつき (2018. 4. 1)	高安 正和 (2019. 4. 1)	塩見 利明 (2019. 4. 1)
池田 洋 (2019. 4. 1)	横尾 和久 (2019. 4. 1)	衣斐 達 (2019. 4. 1)	西川 和裕 (2019. 4. 1)	佐藤 啓二 (2020. 4. 1)
吉田 眞理 (2020. 4. 1)	山口 悦郎 (2020. 4. 1)	植田 広海 (2020. 4. 1)	夢喜田恵子 (2020. 4. 1)	羽生田正行 (2021. 4. 1)
中村 二郎 (2021. 4. 1)	武山 直志 (2021. 4. 1)	藤原 祥裕 (2021. 10. 1)	中野 隆 (2022. 4. 1)	木村 伸也 (2022. 4. 1)
馬場 研二 (2022. 4. 1)	伊藤 恭彦 (2022. 4. 1)	出家 正隆 (2022. 4. 1)	上田 龍三 (2022. 4. 1)	

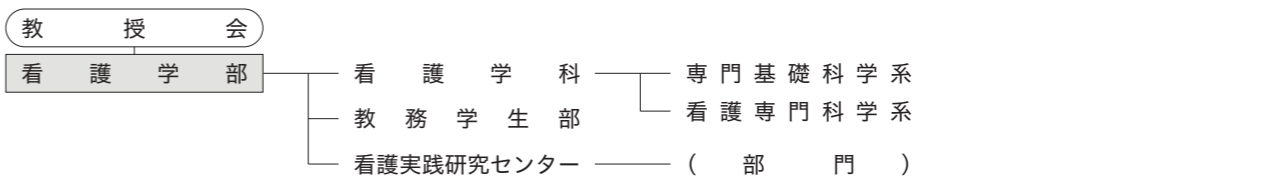
組織運営図 (2023.2.1 現在)



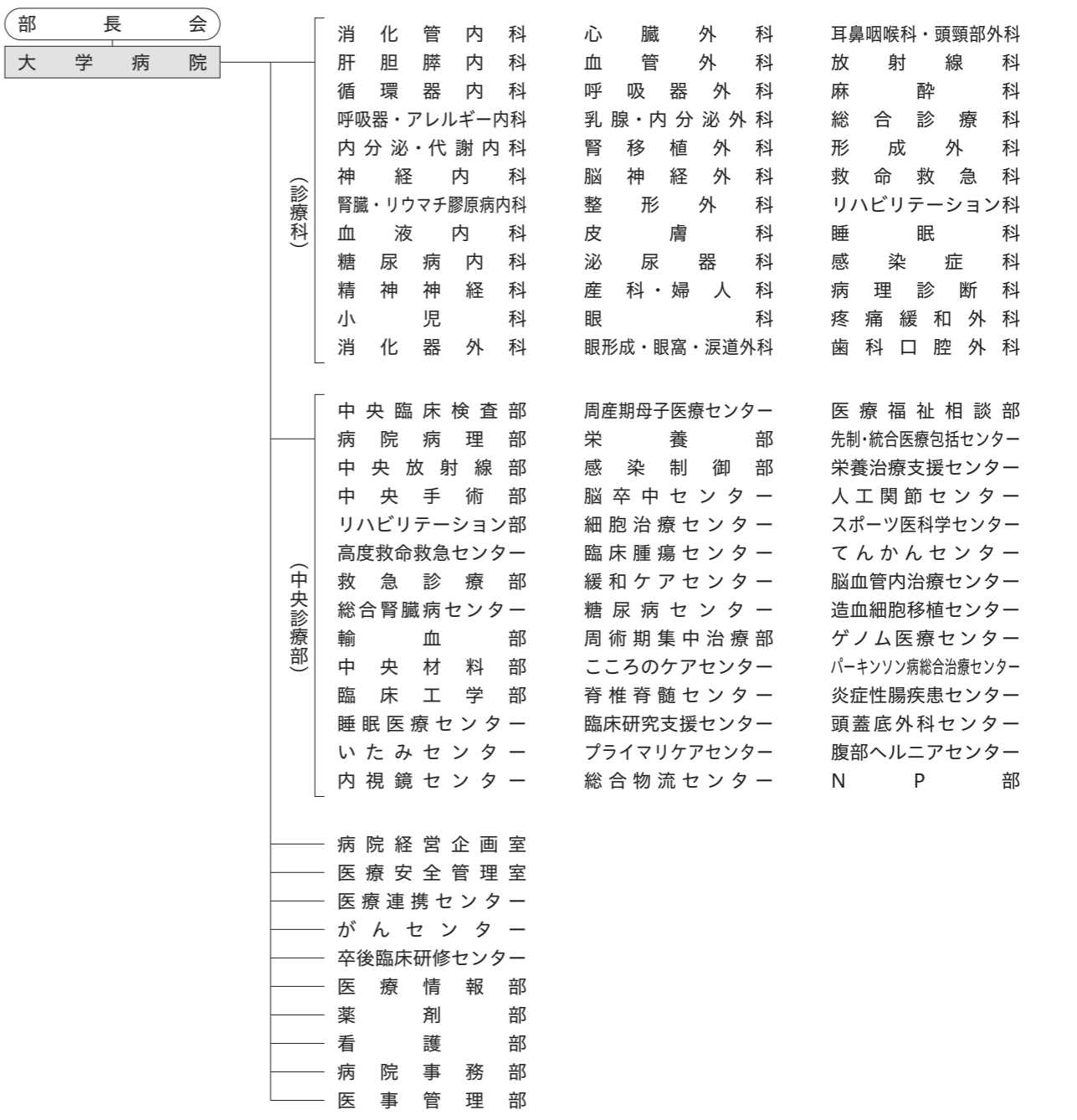
医学部



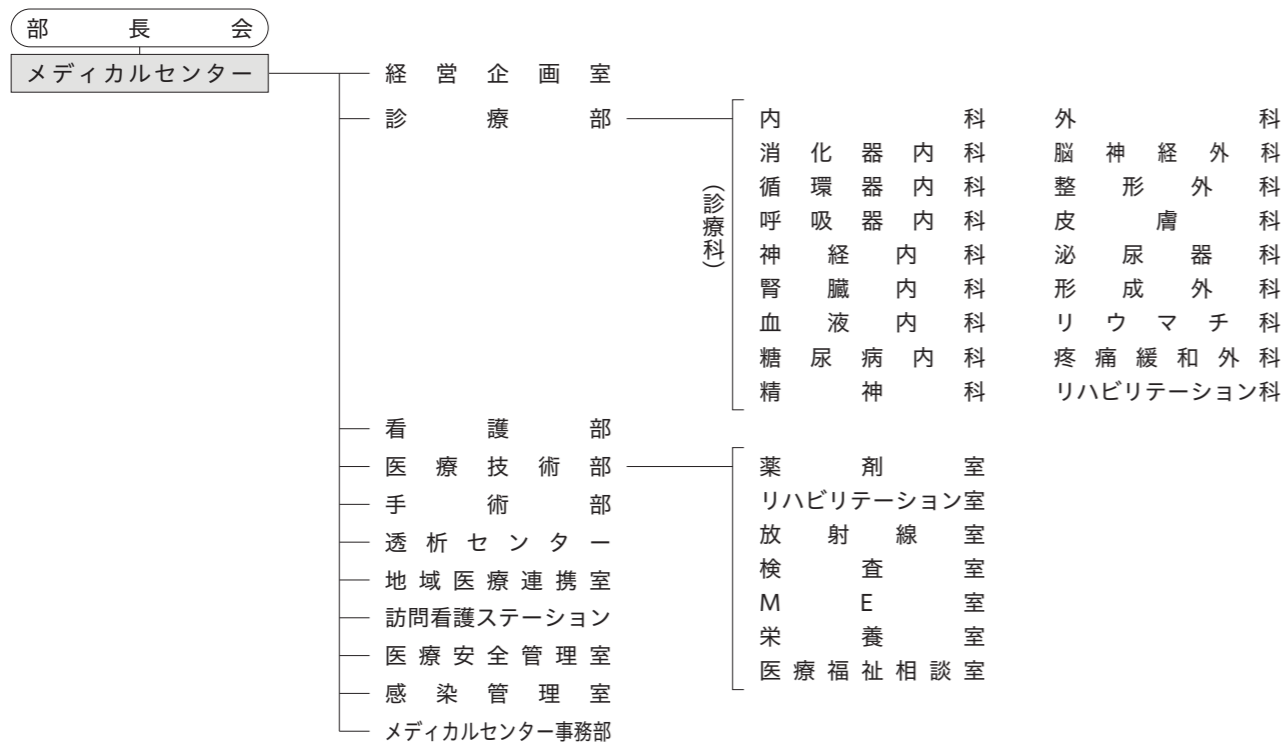
看護学部



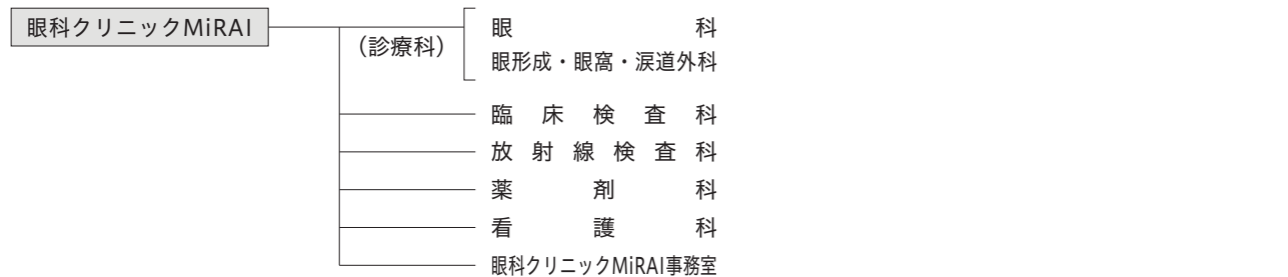
大学病院



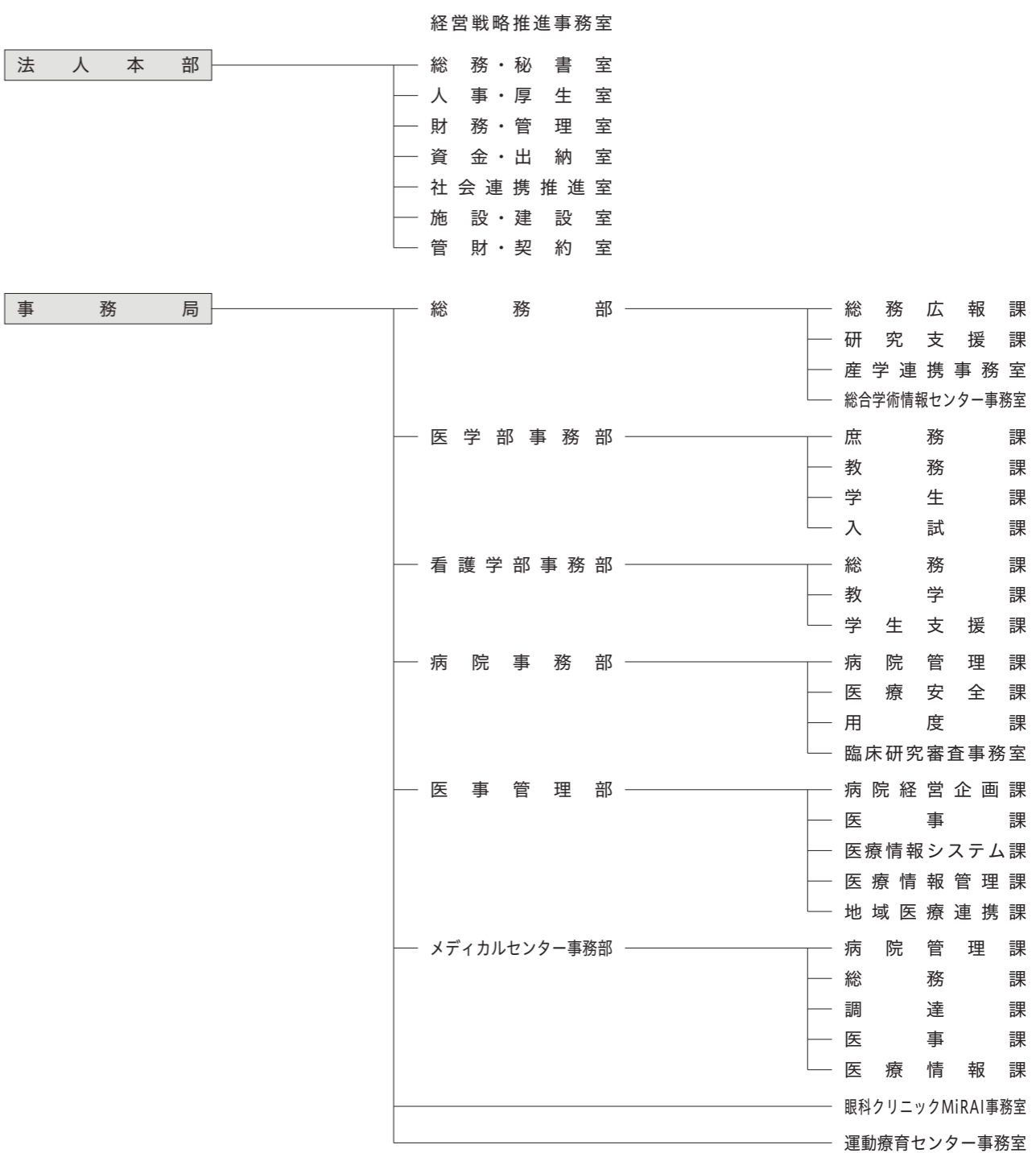
メディカルセンター



眼科クリニックMiRAI



事務組織



職員数

出典：愛知医科大学要覧

単位：人

	教育職員	事務職員	技能技術職員	業務職員	医療職員	看護職員	計
1983年度	277	151	43	79	162	630	1,342
1984年度	303	161	112	14	160	675	1,425
1985年度	330	165	109	15	164	653	1,436
1986年度	329	164	114	15	163	635	1,420
1987年度	353	166	117	9	163	622	1,430
1988年度	359	157	129	9	164	668	1,486
1989年度	379	160	135	8	169	691	1,542
1990年度	381	158	133	7	170	659	1,508
1991年度	370	164	132	144	162	567	1,539
1992年度	386	165	137	150	166	614	1,618
1993年度	412	174	141	132	175	641	1,675
1994年度	410	167	138	126	178	644	1,663
1995年度	415	166	139	126	177	662	1,685
1996年度	407	165	134	122	177	676	1,681
1997年度	419	163	137	114	182	677	1,692
1998年度	424	163	136	105	184	688	1,700
1999年度	418	166	135	100	184	677	1,680
2000年度	442	158	132	92	193	670	1,687
2001年度	445	153	132	84	192	673	1,679
2002年度	457	153	130	75	191	686	1,692
2003年度	460	157	130	64	190	651	1,652
2004年度	478	157	130	55	191	633	1,644
2005年度	457	162	127	52	196	614	1,608
2006年度	464	164	127	49	204	662	1,670
2007年度	490	159	125	46	227	696	1,743
2008年度	513	162	124	39	231	771	1,840
2009年度	530	169	123	37	235	850	1,944
2010年度	527	189	122	27	240	889	1,994
2011年度	552	192	128	26	242	881	2,021
2012年度	604	197	125	22	251	909	2,108
2013年度	601	200	125	18	264	955	2,163
2014年度	608	202	121	18	278	1,023	2,250
2015年度	597	204	116	16	298	1,043	2,274
2016年度	623	203	120	13	314	1,011	2,284
2017年度	657	208	115	12	329	1,026	2,347
2018年度	664	212	113	9	339	1,021	2,358
2019年度	659	223	108	8	338	1,025	2,361
2020年度	658	222	107	6	339	1,020	2,352
2021年度	665	250	108	45	436	1,158	2,662
2022年度	657	263	109	35	443	1,153	2,660

※各年度の職員数は5月1日現在（ただし、1983年度、1994年度は6月1日現在、1993年度、2001年度は7月1日現在）

卒業生数・学位授与者数

出典：愛知医科大学要覧

単位：人

	医学部 (1972年度開設)			看護学部 (2000年度開設)			看護専門 学校 (1974年度開設)
	男	女	計	男	女	計	
1977年度	65	6	71				53
1978年度	64	14	78				25
1979年度	76	21	97				26
1980年度	65	8	73				34
1981年度	77	20	97				31
1982年度	105	23	128				33
1983年度	116	23	139				39
1984年度	97	21	118				38
1985年度	94	23	117				52
1986年度	84	25	109				45
1987年度	99	15	114				53
1988年度	59	13	72				52
1989年度	71	18	89				53
1990年度	68	24	92				54
1991年度	66	17	83				55
1992年度	62	30	92				56
1993年度	64	26	90				61
1994年度	88	37	125				99
1995年度	74	40	114				99
1996年度	71	41	112				95
1997年度	63	39	102				108
1998年度	61	42	103				77
1999年度	59	38	97				77
2000年度	66	29	95				81
2001年度	68	34	102				89
2002年度	49	43	92				
2003年度	66	40	106	4	113	117	
2004年度	58	25	83	5	107	112	
2005年度	70	41	111	9	88	97	
2006年度	62	43	105	10	89	99	
2007年度	49	35	84	8	98	106	
2008年度	67	35	102	6	93	99	
2009年度	60	42	102	15	97	112	
2010年度	61	48	109	14	85	99	
2011年度	57	44	101	15	93	108	
2012年度	60	34	94	7	102	109	
2013年度	59	42	101	3	87	90	
2014年度	58	43	101	6	117	123	
2015年度	50	49	99	5	103	108	
2016年度	57	43	100	7	99	106	
2017年度	59	49	108	1	100	101	
2018年度	64	43	107	10	97	107	
2019年度	54	50	104	7	88	95	
2020年度	69	40	109	5	97	102	
2021年度	50	52	102	3	102	105	
計	3,061	1,468	4,529	140	1,855	1,995	1,485

	医学研究科 (1980年度開設)		看護学 研究科 (2004年度開設)
	課程博士	論文博士	
1977年度			
1978年度			
1979年度			
1980年度			
1981年度			
1982年度			
1983年度	6		
1984年度	9		
1985年度	7	8	
1986年度	5	19	
1987年度	11	18	
1988年度	18	16	
1989年度	13	15	
1990年度	14	9	
1991年度	21	22	
1992年度	15	17	
1993年度	19	18	
1994年度	10	13	
1995年度	21	19	
1996年度	13	22	
1997年度	15	4	
1998年度	14	7	
1999年度	14	17	
2000年度	14	11	
2001年度	16	16	
2002年度	15	13	
2003年度	11	6	
2004年度	7	8	
2005年度	13	11	5
2006年度	15	11	11
2007年度	7	6	4
2008年度	10	5	5
2009年度	19	11	5
2010年度	17	12	7
2011年度	23	12	8
2012年度	17	6	10
2013年度	25	12	10
2014年度	17	9	8
2015年度	19	6	14
2016年度	26	4	11
2017年度	24	6	9
2018年度	23	7	12
2019年度	28	6	13
2020年度	35	8	12
2021年度	24	7	15
計	630	417	159

Appendix 11

大学病院指定

	指定
1986年 1月	特定承認保険医療機関
1994年 2月	特定機能病院
1996年 3月	高度救命救急センター
1996年10月	エイズ拠点病院
1999年 2月	難病医療拠点病院（現・難病診療連携拠点病院）
2002年 1月	ドクターヘリ事業開始
2006年 9月	基幹災害拠点病院
2010年 4月	肝疾患診療連携拠点病院
2011年 4月	救急告示医療機関
2013年 4月	地域周産期母子医療センター
2013年 9月	認知症疾患医療センター
2018年10月	愛知県アレルギー疾患医療拠点病院
2019年 4月	地域がん診療連携拠点病院
2019年 4月	がんゲノム医療連携病院

Appendix 12

大学病院許可病床数

出典：愛知医科大学要覧

単位：床

	一般	精神	計
1983年度	939	63	1,002
1984年度	939	63	1,002
1985年度	939	67	1,006
1986年度	939	67	1,006
1987年度	942	67	1,009
1988年度	1,204	67	1,271
1989年度	1,204	67	1,271
1990年度	1,204	67	1,271
1991年度	1,204	67	1,271
1992年度	1,204	67	1,271
1993年度	1,204	67	1,271
1994年度	1,204	67	1,271
1995年度	1,204	67	1,271
1996年度	1,204	67	1,271
1997年度	1,204	67	1,271
1998年度	1,204	67	1,271
1999年度	1,204	67	1,271
2000年度	1,197	67	1,264
2001年度	1,197	67	1,264
2002年度	1,197	67	1,264
2003年度	1,190	67	1,257
2004年度	1,097	67	1,164
2005年度	957	66	1,023
2006年度	948	66	1,014
2007年度	948	66	1,014
2008年度	948	66	1,014
2009年度	948	66	1,014
2010年度	948	66	1,014
2011年度	948	66	1,014
2012年度	948	66	1,014
2013年度	948	66	1,014
2014年度	853	47	900
2015年度	853	47	900
2016年度	853	47	900
2017年度	853	47	900
2018年度	853	47	900
2019年度	853	47	900
2020年度	853	47	900
2021年度	853	47	900
2022年度	853	47	900

※各年度の許可病床数は5月1日現在（ただし、2003年度は5月13日現在）

Appendix 13

大学病院患者数・手術件数

出典：愛知医科大学要覧

単位：人

	外来患者数		入院患者数	
	延数	1日平均	延数	1日平均
1982年度	270,265	910.0	250,571	686.5
1983年度	290,027	979.7	282,526	776.1
1984年度	311,343	1,051.8	296,177	811.4
1985年度	327,944	1,104.2	301,757	826.7
1986年度	347,957	1,175.6	308,846	846.2
1987年度	363,777	1,220.7	310,836	849.3
1988年度	370,852	1,257.1	324,210	888.2
1989年度	375,486	1,272.8	336,244	921.2
1990年度	383,987	1,310.5	331,971	909.5
1991年度	396,938	1,341.0	333,534	911.3
1992年度	408,609	1,380.4	339,693	930.7
1993年度	427,305	1,453.4	347,476	952.0
1994年度	445,624	1,510.6	351,264	962.4
1995年度	455,773	1,545.0	345,563	944.2
1996年度	479,737	1,631.8	348,759	955.5
1997年度	486,872	1,656.0	350,769	961.0
1998年度	500,366	1,696.2	346,854	950.3
1999年度	514,861	1,745.3	341,769	933.8
2000年度	521,120	1,772.5	334,052	915.2
2001年度	534,336	1,823.7	319,881	876.4
2002年度	540,939	1,839.9	330,470	905.4
2003年度	550,554	1,866.3	297,509	812.9
2004年度	570,756	1,941.3	269,398	738.1
2005年度	572,905	1,948.7	259,657	711.4
2006年度	565,713	1,924.2	263,115	720.9
2007年度	577,165	1,963.1	256,045	699.6
2008年度	585,383	1,997.9	251,455	688.9
2009年度	577,594	1,971.3	246,811	676.2
2010年度	589,572	2,005.3	262,573	719.4
2011年度	605,608	2,052.9	269,716	736.9
2012年度	609,694	2,080.9	272,585	746.8
2013年度	600,631	2,043.0	259,385	710.6
2014年度	581,625	2,393.5	254,481	697.2
2015年度	617,443	2,540.9	271,343	741.4
2016年度	628,485	2,586.4	269,649	741.4
2017年度	643,926	2,639.0	275,770	755.5
2018年度	647,460	2,653.5	268,997	737.0
2019年度	647,006	2,619.5	274,650	750.4
2020年度	599,017	2,415.4	247,403	677.8
2021年度	638,492	2,574.6	259,543	711.1

出典：愛知医科大学要覧

単位：件

	手術件数
1982年度	3,429
1983年度	3,798
1984年度	4,389
1985年度	4,737
1986年度	4,460
1987年度	5,129
1988年度	5,085
1989年度	5,058
1990年度	4,829
1991年度	4,943
1992年度	5,344
1993年度	5,382
1994年度	5,535
1995年度	5,380
1996年度	5,440
1997年度	5,779
1998年度	4,622
1999年度	4,685
2000年度	4,754
2001年度	4,625
2002年度	5,065
2003年度	5,192
2004年度	5,023
2005年度	8,091
2006年度	8,827
2007年度	8,435
2008年度	8,632
2009年度	8,627
2010年度	8,848
2011年度	8,992
2012年度	9,288
2013年度	9,206
2014年度	9,568
2015年度	10,950
2016年度	11,540
2017年度	12,348
2018年度	12,682
2019年度	13,699
2020年度	12,158
2021年度	13,333

大学病院高度救命救急センター患者数

出典：愛知医科大学要覧

単位：人

	ICU			HCU			実患者数計	延患者数計	1日平均計
	実患者数	延患者数	1日平均	実患者数	延患者数	1日平均			
1982年度		1,656	4.6		6,910	18.9		8,566	23.5
1983年度		1,972	5.4		6,275	17.1		8,247	22.5
1984年度	377	2,475	6.8	902	7,542	20.6	1,279	10,017	27.4
1985年度	409	2,647	7.2	923	8,025	22.0	1,332	10,672	29.2
1986年度	381	2,488	6.8	781	7,907	21.7	1,162	10,395	28.5
1987年度	313	2,694	7.4	823	7,949	21.7	1,136	10,643	29.1
1988年度	328	2,683	7.3	745	7,484	20.5	1,073	10,167	27.8
1989年度	407	2,912	8.0	798	7,650	20.9	1,205	10,562	28.9
1990年度	376	2,180	6.0	841	6,824	18.7	1,217	9,004	24.7
1991年度	379	2,641	7.2	739	7,473	20.4	1,118	10,114	27.6
1992年度	488	2,926	8.0	684	7,314	20.0	1,172	10,240	28.0
1993年度	462	2,767	8.0	700	6,729	18.0	1,162	9,496	26.0
1994年度	518	2,658	7.3	658	6,210	17.0	1,176	8,868	24.3
1995年度	312	2,744	7.5	642	5,631	15.4	954	8,375	22.9
1996年度	322	2,442	6.7	695	6,229	17.1	1,017	8,671	23.8
1997年度	471	2,481	6.8	585	6,190	17.0	1,056	8,671	23.8
1998年度	512	2,542	7.0	598	5,380	14.7	1,110	7,922	21.7
1999年度	411	2,672	7.3	628	5,636	15.4	1,039	8,308	22.7
2000年度	457	2,691	7.4	531	4,994	13.7	988	7,685	21.1
2001年度	427	2,510	6.9	454	4,198	11.5	881	6,708	18.4
2002年度	537	2,850	7.8	499	4,789	13.1	1,036	7,639	20.9
2003年度	519	2,766	7.6	544	4,694	12.8	1,063	7,460	20.4
2004年度	450	2,890	7.9	394	4,520	12.4	844	7,410	20.3
2005年度	494	2,749	7.5	1,295	5,192	14.2	1,789	7,941	21.8
2006年度	492	3,082	8.4	1,776	5,917	16.2	2,268	8,999	24.7
2007年度	585	2,901	7.9	1,857	5,615	15.3	2,442	8,516	23.3
2008年度	678	3,062	8.4	1,641	5,974	16.4	2,319	9,036	24.8
2009年度	731	3,279	9.0	1,534	6,162	16.9	2,265	9,441	25.9
2010年度	650	3,135	8.6	1,741	7,166	19.6	2,391	10,301	28.2
2011年度	707	3,170	8.7	1,966	7,562	20.7	2,673	10,732	29.4
2012年度	627	3,220	8.8	2,074	7,869	21.6	2,701	11,089	30.4
2013年度	586	3,178	8.7	2,013	7,794	21.4	2,599	10,972	30.1
2014年度	596	3,175	8.7	2,292	8,275	22.7	2,888	11,450	31.4
2015年度	748	3,564	9.7	2,492	8,409	23.0	3,240	11,973	32.7
2016年度	797	3,858	10.6	2,447	8,410	23.0	3,244	12,268	33.6
2017年度	824	3,846	10.5	2,594	8,872	24.3	3,418	12,718	34.8
2018年度	891	3,652	10.0	2,744	8,314	22.8	3,635	11,966	32.8
2019年度	887	3,915	10.7	2,654	8,196	22.4	3,541	12,111	33.1
2020年度	874	3,787	10.4	1,738	5,548	15.2	2,612	9,335	25.6
2021年度	992	3,987	10.9	1,962	6,718	18.4	2,954	10,705	29.3

※1996年3月28日付で高度救命救急センターに指定

メディカルセンター指定

	指定
2021年 4月	健康保険法による保険医療機関
2021年 4月	労働者災害補償保険法による指定医療機関
2021年 4月	生活保護法による指定医療機関
2021年 4月	難病の患者に対する医療等に関する法律による指定医療機関
2021年 4月	感染症法による結核指定医療機関
2021年 4月	児童福祉法による指定小児慢性特定疾病医療機関
2021年 4月	救急告示病院
2021年 4月	臨床研修病院
2021年 6月	障害者自立支援法（腎臓に関する医療、整形外科に関する医療）
2021年 10月	愛知県B型・C型肝炎患者医療給付事業における指定医療機関

メディカルセンター許可病床数・患者数・手術件数

出典：愛知医科大学要覧

単位：床

病床数	一般	療養	計
2021年度	90	180	270
2022年度	90	180	270

単位：人

患者数	外来患者		入院患者	
	延数	1日平均	延数	1日平均
2021年度	37,043	126.0	42,434	116.3

単位：件

手術件数	外来	入院	計
2021年度	69	276	345

メディカルクリニック指定

	指定
1983年 6月	健康保険法による(特定承認)保険医療機関
1983年 6月	国民健康保険法による(特定承認)療養取扱機関
1983年 6月	原爆援護法 一般医療
1983年 6月	児童福祉法 措置等に係る医療
1983年 6月	障害者自立支援法 精神通院医療
1983年10月	労働者災害補償保険法による医療機関
1983年10月	感染症法(結核)による医療機関
1988年11月	生活保護法による医療機関
2014年12月	難病の患者に対する医療等に関する法律による医療機関
2015年 1月	児童福祉法 指定小児慢性特定疾病医療機関

メディカルクリニック人間ドック等実施件数

出典：愛知医科大学要覧

単位：件

	人間ドック	成人病検診	定期健診
1984年度	265	277	
1985年度	407	204	665
1986年度	390	429	753
1987年度	735	554	878
1988年度	901	698	1,168
1989年度	1,205	792	1,514
1990年度	1,326	877	1,402
1991年度	1,391	634	837
1992年度	1,440	335	347
1993年度	1,526	172	218
1994年度	1,423	73	155
1995年度	1,399	81	155
1996年度	1,347	120	220
1997年度	1,374	81	187
1998年度	1,400	78	212
1999年度	1,358	90	217
2000年度	1,354	95	234
2001年度	1,503	68	264
2002年度	1,530	75	206
2003年度	1,466	70	240
2004年度	1,517	58	223
2005年度	1,543	60	204
2006年度	1,501	71	195
2007年度	1,559	60	206
2008年度	1,613	64	231
2009年度	1,670	58	180
2010年度	1,622	42	156
2011年度	1,570	52	142
2012年度	1,588	43	125
2013年度	1,492	16	97

※1984年度は1984年6月1日から1985年5月31日の数値

メディカルクリニック患者数

出典：愛知医科大学要覧

単位：人

	延数	1日平均
1983年度	17,239	58.0
1984年度	28,831	97.6
1985年度	37,483	126.2
1986年度	41,001	138.5
1987年度	47,651	159.9
1988年度	51,871	175.8
1989年度	53,804	182.4
1990年度	55,707	190.1
1991年度	58,699	198.3
1992年度	60,287	203.7
1993年度	61,277	208.4
1994年度	61,741	209.3
1995年度	60,175	204.0
1996年度	62,731	213.4
1997年度	61,104	207.8
1998年度	59,633	202.1
1999年度	59,323	194.3
2000年度	55,103	187.4
2001年度	53,289	181.9
2002年度	49,201	167.4
2003年度	45,597	154.6
2004年度	43,838	149.1
2005年度	42,235	143.7
2006年度	42,521	144.6
2007年度	42,308	143.9
2008年度	39,245	133.9
2009年度	37,872	129.3
2010年度	35,502	120.8
2011年度	34,654	117.5
2012年度	33,741	115.2
2013年度	34,982	119.0
2014年度	32,814	133.4
2015年度	35,191	144.8
2016年度	34,941	143.8
2017年度	30,327	124.3
2018年度	33,589	137.7
2019年度	35,958	145.6
2020年度	33,037	133.2
2021年度	32,641	131.6

※1983年度は1983年6月1日から1984年5月31日の数値

編集後記

2022年に愛知医科大学が創立50周年を迎えるにあたり、創立50周年記念事業実行委員会において検討の結果、記念誌事業として「紹介パンフレット」、「写真集」、「50年誌」の制作が決定しました。紹介パンフレットは、写真集のダイジェスト版という位置づけの基、2022年11月3日の「創立50周年記念式典」に向けて編纂が進められ、2022年9月に教職員・学生・同窓生等に配布されました。

写真集の発刊は、創立30周年記念事業として刊行された『写真集 愛知医科大学の歴史1970～2006』以来の制作事業であり、編纂にあたっては、周年誌や各種広報誌並びにアーカイブズに保管された膨大な写真・資料を紐解きながら作業が進められました。現在の成長した愛知医科大学に至るまでの写真編纂を顧みて、改めて太田元次初代理事長の熱意とリーダーシップに対して、また、幾多の困難を乗り越え本学の発展に尽力された教職員及び同窓の各位に対して、心から敬意と感謝を捧げたいと存じます。

数千枚に及ぶ写真・資料の中から約370枚の写真を選定することは困難な作業であり、収集不能等により十分に意を尽くせないところもありましたが、50周年の節目として愛知医科大学50年の歩みを写真で綴ることができました。将来、新たに本学の歴史が刻まれ、さらに充実したものに改訂していただけることを念願致します。なお、掲載写真につきましては、愛知医科大学の歴史を語る貴重な資料として選定させていただいた写真でございますので、ご理解・ご容赦くださるようお願い申し上げます。

最後になりましたが、写真集の編纂にあたりご支援・ご協力いただきました、実行委員会委員長の祖父江理事長を始め委員会委員の皆様、並びに事務局の皆様へ御礼申し上げます。

2023年3月

愛知医科大学創立50周年記念事業実行委員会

記念誌事業担当委員 細川 好孝

早稲田勝久



愛知医科大学創立50周年記念誌
[写真集]

2023年3月 発行

発 行 愛知医科大学
〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
編 集 創立50周年記念事業実行委員会
制 作 株式会社マイナビ
制作協力 有限会社双双編集
印 刷 菱源株式会社